

第58号

学体連会報

令和3年度



公益財団法人 日本学校体育研究連合会
(<http://www.gakutairen.jp>)

JES

Just Evidence Shoes



Wide (広幅)

Middle (中幅)

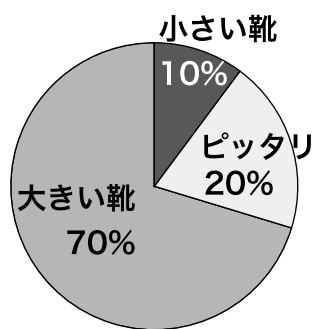
Narrow (狭幅)

足に合った靴を履いていますか？

靴には、長さだけでなく、幅のサイズがあります。足に合わない靴は、トラブルの原因になりますが長さ幅ともに、足に合った靴を履いているのは小学生の約10%、中学生・高校生の約5%ほど。とても少ないことが解りました。

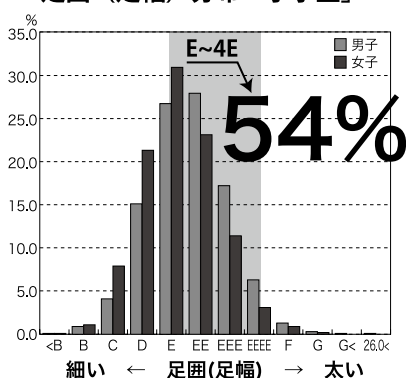
(公財) 日本学校保健会「足の健康と靴のしおり 改訂版」より

児童生徒が履いている靴

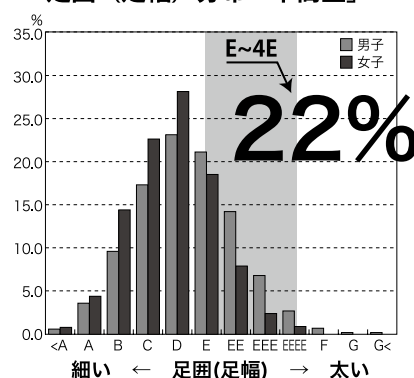


(足長比較)

足囲(足幅) 分布「小学生」



足囲(足幅) 分布「中高生」



1万人の足計測から幅の選べる学校シューズ誕生！

(公財)日本学校体育研究連合会“認定品” 科学的根拠が認められ、特に優れた体育用品として評価されました。



AMT-311 上履・体育館

WMN 3-width・14.0~29.0cm



AMT-312 上履・体育館

WMN 3-width・18.0~29.0cm



JES-009 上履・体育館

WMN 3-width・21.0~30.0cm



あしもり
みんな足守

JES日本教育シューズ協議会

本部事務局 〒101-0032 東京都千代田区岩本町 3-3-4

TEL. 03-3862-8684 FAX. 03-3862-8632



学校体育への貢献と顕彰

会長 友添 秀則

新型コロナウイルスの感染拡大は、私どもの生活に大きな影を落としています。医療の逼迫、経済や雇用の停滞だけではなく、教育や学校、授業の在り方にも影響を及ぼしています。このような状況の中で、今年度の第六十回全国学校体育研究大会愛媛大会は、残念ながら、昨年度と同様に通常開催を見送りました。

今年度は大会時期を十二月十五日（水）～十二月二十二日（水）の一週間として、全体会及び分科会（十二会場）の内容を動画に収録し、全国の先生方が視聴できるようにオンデマンド配信を行うという、ウェブと大会紀要とによるハイブリッド型の大会になりました。初の試みにご尽力いただきました関係各位に心からお礼申し上げます。

全国学校体育研究大会は開催県等が長い時間をかけて積みあげてこられた研究成果を発表し、全国へ発信する大切な場です。と同時に、もう一つの貴重な場でもあります。それは、学校体育研究に貢献された学校・園や素晴らしい授業実践を行っておられる先生方を表彰するとともに、これまで長きにわたって学校体育に貢献して下さった方々を顕彰する場でもある

からです。

今年度は全国学校体育研究最優秀校（文部科学大臣賞）として三校、全国学校体育研究優良校に八十七校、全国学校体育功労者として一三五名の先生方、体育授業優秀教員に四名の先生方が栄えある賞をそれぞれ受賞されました。これまでのご研鑽や学校体育に対するご貢献に心より敬意を表しますとともに、受賞をお慶び申し上げます。

学体連では、表彰事業を学校体育振興にとってきわめて重要な事業と位置付け、継続的に実施して参りました。日々の授業で大きな成果をあげることは、一朝一夕にできるものではありません。毎日の授業の中で、子供たちの学びを見取りながら、様々な工夫を重ね、経験を積みながら、なおかつ真摯に努力を重ねることが、大きな果実を生むこととなります。学体連は、成果をあげられた先生方を顕彰すると共に、研究の成果やご経験を次代の先生方にお伝えし、一層わが国の学校体育が発展することの願いを表彰事業に込めています。

全国学校体育研究優良校表彰の歴史は古く、昭和二十六年から実施して参りました。表彰される年

度を含んで三年以上、学校・園をあげて体育に関する指導や研究が計画的に行われ、県や地域の模範として都道府県推薦委員会の推薦があった中から中央審査会の審議を経て選考されます。また平成十三年からは、その中から特に顕著な業績をあげているところについて、文部科学大臣賞選考委員会の議を経て、全国の模範となる全国学校体育研究最優秀校（文部科学大臣賞）が選ばれています。

一方、教員として二十年以上、学校体育の研究や研鑽に励まれ、県内、地域において模範となる先生方を称え、後進の私どもの励みとするために、昭和四十六年から全国学校体育功労者表彰を行って参りました。また、平成二十九年からは、三十五歳以上四十五歳以下で教職経験が十年以上の現職の先生方を対象に、体育授業優秀教員表彰を実施して参りました。それぞれの賞の詳細は学体連ホームページに記載されています。是非、ご覧いただければと思います。優れた体育授業実践や学校体育の先達の先生方の歩まれた道から多くを学ぶこと、それはコロナ禍の今こそ、学校体育がこれからも前進し続けるために、もっとも大切なことと思えてなりません。

目次

会長挨拶	1
座談会	2
全国学校体育研究大会近年度開催地紹介	15
令和2年度受賞 体育授業優秀教員 授業実践紹介	16
第59回 全国学校体育研究大会福井大会を終えて	20
第60回 全国学校体育研究大会愛媛大会開催にあたって	21
愛媛大会分科会授業の取組	22
令和3年度 最優秀校（文部科学大臣賞）受賞校紹介	25
令和3年度 体育授業優秀教員紹介	26
令和2年度各都道府県教育委員会長期研修生等合同発表大会	27
令和3年度 JASRE足育（あしいく）の推進について	30
令和2年度 賛助会員（個人）一覧	42
令和3年9月期 賛助会員（法人）一覧	43
広告	44

第58号

表紙にある学体連ロゴマークについて



(公財)日本学校体育研究連合会

上部の円は幼児を、それを受ける形で3つの弧が描かれている。小さな弧から順次、小学生、中学生、高校生を表示している。幼児・児童・青年がしっかりと大地に足を踏んばり、両腕を高くかかげて、生き生きと運動している姿をイメージすることができる。子どものありべきシエマを発展的系統的に象徴している『学校教育のシンボリズム』ないしシンボシエマ。図柄は紫紺の地に白抜きである。（会報第28号浅田隆夫理事長（当時の役職））

〒151-0052 東京都渋谷区神園町3番1号
国立オリンピック記念青少年総合センター内
公益財団法人日本学校体育研究連合会
電話03-3465-3954 FAX03-3465-7464
発行者：友添 秀則
発行日：令和3年11月6日
mail: gakutairen@msb.biglobe.ne.jp

座談会

日時 令和三年十月十三日（水） 午前十時から
会場 ZOOMによる開催

小中学校の新学習指導要領が全面実施になったことを受け、「新学習指導要領に基づく体育科・保健体育科の指導と評価」をテーマに、二名の教科調査官による座談会を実施しました。

「育成を目指す資質・能力」、「主体的・対話的で深い学び」、「指導と評価の一体化」についてお話をしていただきました。

菅原事務局長

ます。

《挨拶》

皆さん、本日は本当にお忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

学体連では毎年会報を作成・発行しております。

吉原理事

《趣旨及び進行》

本日の座談会では、次の三つの柱でお話を進めていただきました
と思うております。

今回は、小・中学校の新学習指導要領が全面実施になったことを受けて、全国の先生方に向けて、スポーツ庁教科調査官の皆様に、「新学習指導要領に基づく体育科・保健体育科の指導と評価」というテーマでお話していただくことにしました。

これからの体育・保健体育の授業について、実践の具体例や各事項における留意事項等をお話しいただければ幸いです。

どうかよろしく願います。

理事長の細越でございます。

本日は、教科調査官三人にお揃いいただき、座談会が開催できますこと、本当にありがとうございます。

本日の座談会では、次の三つの柱でお話を進めていただきました
と思うております。

本日は、小・中学校の新学習指導要領が全面実施になったことを受けて、全国の先生方に向けて、スポーツ庁教科調査官の皆様に、「新学習指導要領に基づく体育科・保健体育科の指導と評価」というテーマでお話していただくことにしました。

塩見英樹調査官

小学校運動領域を担当しております。塩見と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

関伸夫調査官

中学校の体育分野と、高等学校の科目体育を担当しております。関と申します。どうぞよろしく

お願いいたします。

横嶋剛調査官

小・中・高の保健を担当しております。横嶋と申します。よろしくお願いします。

細越理事長

本日は、早急三つのテーマに沿って進めてまいります。

小学校は昨年度、そして中学校は今年度から新学習指導要領が全面実施になり、高等学校も来年度からの年次進行に向けて、準備が進められています。

最初は、新学習指導要領において、体育・保健体育科が「育成を目指す資質・能力」、これについて横嶋先生から全体像をお話しいただきたいと思

その後、それぞれのご担当部分につきまして、詳しくお話しいただきたいと思

横嶋剛調査官

《育成を目指す資質・能力》
それでは私からは、育成を目指す資質・能力について話をさせていただきます。

まず、小学校・中学校新学習指導要領が平成二十九年、高等学校が平成三十年に改訂されましたが、これらは平成二十八年十二月の中教審の答申を踏まえたものになります。その中で、新学習指導要領改訂の方向性が検討されました。資質・能力については改訂の基本的な考え方として、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「何ができるよ



スポーツ庁 政策課
教科調査官

塩見 英樹 先生



国土舘大学
教授

細越 淳二 先生



スポーツ庁 政策課
教科調査官

横嶋 剛 先生



桐蔭横浜大学
客員教授

吉原 昌子 先生



スポーツ庁 政策課
教科調査官

関 伸夫 先生

座 談 会 出 席 者

うになるか」という三つで整理されています。この「何を学ぶか」については、目標や内容の見直しが行われ、「どのように学ぶか」では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の改善が検討されました。そして、「何ができるようになるか」については、新しい時代に必要な資質・能力の育成と学習評価の充実について検討され、育成すべき資質・能力の三つの柱が示されました。

学校教育法の第三十条の第二項では、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」と示されています。

力等」については、理解していること、できることをどう使うか、「学びに向かう力、人間性等」については、どのように社会、世界と関わり、よりよい人生を送るか、と示されています。

この資質・能力は一つの教科だけでなく育むものではなく、学校教育全体で共通して取り組むものです。各教科においてもそれをもとに、教科の目標が示されています。

今日は、体育科・保健体育科で育成を目指す資質・能力についてお話をしていくことになりましたが、まず先生方に知っていただきたいのは、今回改訂された新学習指導要領では、各教科の指導を通して育成を目指す資質・能力が、三つの柱で再整理されたということです。これは、知・徳・体にわたる生きる力全体を捉えて、共通する重要な要素を示したものです。

先生方には、教科の目標が、この三つの資質・能力で整理されているということ、授業を行う際、また教育課程を編成して、

単元を設定をする際、必ずこの三つの資質・能力で内容を整理をして計画を立てていくということを理解していただきたいと思っています。

細越理事長

ありがとうございます。

それでは小学校体育、そして中学校・高等学校体育、それから保健の分野で、具体的に新しい学習指導要領の枠組、あるいは内容がどのように変わった、また、学校現場の反応なども含めて、現状を教えてください。

塩見英樹調査官

《新学習要領の枠組、内容の改訂と学校の反応》

従前と比較して変わった点についてお伝えしたいと思います。

これまでは「技能」（体つきり運動系は「運動」、「態度」、「思考・判断」でした。今回、三つの柱に整理され、小学校の運動領域に、知識が新たに加わりました。例えば低学年でしたら、新学習指導要領には「その

行い方を知るとともに」と記されています。そして、「基本的な動きを身に付けるようにする」と技能につながっていきます。

実際の授業場面では、「『行い方を知る』というのは具体的にどういうことなのか」と、先生方が疑問に思われることあるかもしれません。「行い方を知る」とは、低学年でしたら、「運動遊びの課題、行い方のきまり、用具の使い方、場の安全確保等、各種の運動遊びの行い方を知ることが、各種の基本的な動きの習得や課題の解決、友達との関わり合いなどをしやすくするものであることから、今回、新たに示したものである」と解説に記されています。

マット遊びの単元でしたら、マット遊びの遊び方や安全を確保するためのきまりなどをこれまで先生方は指導されてきました。今後、「知識及び技能」の知識については、マットを使った運動遊びの行い方を子供たちに知識として指導をしていく。そして、子供たちが学んだ

知識をもとに、技能の習得を図っていく。つまり、行い方としての知識を指導し、その上で『子供たちがきちんと分かっているかな』と見取っていく。行い方が十分分かっていないと判断したら、その後の指導で、行い方が分かるよう指導や支援を行っていくことが求められると思います。

「思考力、判断力、表現力等」については、今回、表現力が新たに示されました。中教審答申の「現行新学習指導要領の成果と課題」の中で、課題として次のように記されています。

「他方で、習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題があること」

これからの社会を生きていく子供たちにとって、相手に分かりやすく伝えていく力は、とても大切な力だと思います。体育の授業においても同様です。例えばボール運動系の学習で、チームで作戦を選ぶ際に、まず

は一人一人が作戦を選びます。そして、選んだ作戦を同じチームの仲間に伝えることによって、「その作戦いいね」とか、新たな作戦が浮かび上がるがあると思います。そのような学習が展開されることで、子供たちの楽しさが増していくと思います。

表現力については、この力を付けることにみに指導者の意識が向かい、子供たちがただ伝え合っているような授業でよしとするのではなく、相手に分かりやすく伝えることによって子供たちがもつと楽しくなっていく、そんな授業を目指していただけたらと思います。その中でツールの一つとなるのがICT端末だと思っています。一人一人がゲームを振り返る際に、各自の端末を活用することによって、自分の動きやチームの動きをしっかりと振り返って、チームの仲間に伝えていく。そのような活用

の仕方もあるかと思っ

ています。次に、「学びに向かう力、人

間性等」です。昨年度、「主体的に学習に取り組む態度」のお問合せをいただくことが多かったのですが、今年度は、先生方も実際の授業の中で指導し、評価をしていく中で、「学びに向かう力、人間性等」の指導と評価が形づいてきているのではないかと感じています。新学習指導要領に示されている内容を指導し、そして評価していく。これからの体育の授業でも大事にしていきたいと思っています。

関仲夫調査官

新しい学習指導要領の枠組については、中学校も高校も同様です。

その中で今回は、具体的な知識と汎用的な知識の往還を図ることが示されていますので、それについてはしっかりと指導していただきたいと思っています。

中学校第一学年及び第二学年のマット運動を例にとると、いわゆる接転技群の内容で、順々

に体をマットにつけて回るといったときに、「回転力を高めるための動き方で」という言葉が新学習指導要領の解説に出て来ます。その回転力を高めるための動き方という汎用的な知識と、具体的にどうやったらその回転力を高める動きができるのかという具体的な知識、例えば、顎を引くとか、おへそを見るとか、勢いをつける、といったことを先生方はご指導をにされると思います。このよう汎用的な知識と具体的な知識がセットになってできるようになっていく、分かったという状況になっていくこと、これが深い学びにもつながっていくのだと思います。

夫していただければと思います。また、協力するということがあれば、協力する場面や仕方の具体的な知識を教えるということと、もう一つはなぜ協力するのかという汎用的な知識を教えることで、社会に出てから場面に応じた行動をとることができるようになると考えます。そして、先生方には授業を行う前に、解説の各領域の冒頭に書かれている内容を確認していただきたいです。例えば中学校と高等学校の器械運動ですと、技に挑戦してその技ができる楽しさ、喜びを味わうことのできる運動であるとか、陸上競技であれば記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である、といったその領域の機能的な特性が書いてあります。それを味わわせるための技能の習得であることを考えていただければ、ただ速く走ればいいというのではないことがご理解いただけると思います。

表現力等」は、中学校、高等学校では、いわゆる体の動かし方と行い方に関する「思考力、判断力、表現力等」。授業を拝見させていただくと、先生方はみなさん取り組まれています。合理的な動きと比較して、成果や改善すべきポイントの理由を添えて伝えることは扱われていますが、「思考力、判断力、表現力等」はその他に、安全上の留意点を他の学習場面に当てはめ、伝えるといった、体力や健康安全に関する「思考力、判断力、表現力等」もあります。また、違いを踏まえて楽しむ方法を見付け、伝えるという、運動実践につながる態度に関する内容もあります。そして中学校第三学年以降では、運動を継続して楽しむための関わり方を見つけるといった、生涯スポーツの設計に関する「思考力、判断力、表現力等」。このように、四つの大きなカテゴリーがありますので、それをバランスよく実践していただきたいということをお伝えしたいです。

最後に、「学びに向かう力、人間性等」についてです。体育、保健体育以外の教科は、「学びに向かう力、人間性等」については、内容のまとまりごとに指導内容が示されていません。しかし、体育は従前から態度を内容として示しています。公正・協力、責任・参画、共生、それから健康・安全、愛好的な態度、こういった資質・能力が指導内容として示されており、育成できるということは、体育の強みではないかと思っています。そうしたことを意識して指導していただくことが重要だと考えています。

横嶋剛調査官

保健については、まず「知識及び技能」として、新たに技能の内容が位置付いたことが大きなポイントになります。具体的には、小学校・中学校における「心の健康」に関する技能と、小学校・中学校・高等学校における「応急手当」に関する技能が位置付けられたことです。ここで注意していただきたいことは、「知識及び技能」ということで知識と技能が一つになっていくということです。保健の技能は、スキルを指導し評価するのではなく、知識と一体として技能を身に付けさせることを踏まえる必要があります。

次に、「思考力、判断力、表現力等」では、これまで「表現力」はありませんでした。例えば保健の授業で思考判断を見取るときには、表現をする学習活動から見取っていたと思います。それが「思考力、判断力、表現力等」として明確に位置付けられました。ここで注意していただきたいのは、児童生徒がプレゼンを中心とする授業形態が望ましいわけではないということです。ここでは、課題発見、課題解決、表現の三つが位置付いています。ですから、これまで通り課題を発見したり、課題を解決したりしたことを、他者に伝えていくというイメージになります。ですので、この「表現」にあまり重きを置き過ぎず、バ

ランスよく取り組んでいただきたいと思います。

「学びに向かう力、人間性等」については、知識の習得や「思考力、判断力、表現力等」の育成に取り組む際の意思的な部分を評価していただきたいと思っています。粘り強く取り組もうとしているか、取組方を試行錯誤して工夫しようとしているかという視点で、指導し評価していただきたいと思います。新学習指導要領では、「学びに向かう力、人間性等」についての内容は示されていませんので、目標として示されている内容の確認が必要です。

細越理事長

先ほど児童生徒に問いかけ、発問するというお話がありました。体育ではこれまで、発問の研究が本当に少なかったように思います。他教科では、「この発問で今日の一時間が決まる」といった話がありますけれど、体育では活動をつくり出しましょう、教材研究しましょう

という意識が強かったように思います。

これからは発問も含めた言葉のキャッチボールをしながら、学びを豊かにしていく、視野を広げていくというのが、今後の体育の姿の一つになるかと思いましたが、この点についていかがでしょうか。

関伸夫調査官

《発問を含めた学びの姿》

細越先生が今おっしゃったことは、私の中でも課題だと思っており、授業を拝見するときは、そこをいつも注目しています。それは先ほどお話ししたように、子供たちを深い学びに導いていくためには、教師の発問がとても大きいと感じているからです。細越先生がおっしゃったように、発問力を、教員自身がどう鍛えていくかが大切だと思います。そのためには、子供たちの深い学びの姿はどういう姿なのかをイメージすることが重要になってくると考えています。

細越理事長

横嶋先生、中学校の保健分野の内容で、一つの単元を学年を分けて授業をしていくという枠組になっていますが、先生方の受け止めはいかがなものでしょうか。そして、現在計画を立てて、進めていると思いますが、実際の様子など情報があるでしょうか。

それから、体育と保健の一層の関連を図ることが今回言われておりますので、保健の立場から見ても、体育との一層の関連について、アイデアがあれば伺いたいと思います。

横嶋剛調査官

《保健分野の内容の取扱い、体育と保健の関連》

中学校保健分野の「健康な生活と疾病の予防」という内容のまとまりが、従前は第三学年で取り扱う内容で、四つの内容のまとまりのうちの四つ目でした。今回の改訂により、一つ目になり、その内容が、六つに分かれています。

一点目の、学年を分けて混乱がないかという質問ですが、内容のまとまりと単元設定は異なるものだと、先生方には説明しています

国が作成している参考資料において、「単元とは、各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的なまとまりのこと」としています。単元設定は、各学校が教育課程を編成する際に行うことになります。つまり、新学習指導要領解説では、ア、イが一年生、ウ、エが二年生、オ、カが三年生と学年が指定されていますので、六つのものを単元として設定するか、またはアとイを一つの単元にして設定するか。それは学校が決めることになります。その際、単元を学年を分けて設定するということはないと思います。

指導資料でも、同じ学年で完結する単元設定を例示していますので、混乱はないと思っています。ただ、「思考力、判断力、表現力等」は内容のまとまりご

とに一括して記載しています。

ですから、この新学習指導要領解説の説明はきちんとしておかないと、先生方が混乱するかもしれません。そこは我々もこれからしっかりと伝えていきたいと思っています。

二点目の体育と保健の関連では、今回、解説で年間指導計画を作成する際の例示がされています。

例えば小学校第五学年の心の健康と体ほぐしの運動を同じ時期に、または時期を前後して取り扱うなど、連続性をもたせるような単元の配置を工夫することが考えられます。また、水泳と応急手当などについて、関連付けて指導するように書かれています。

このように、関連付けた単元をどう配置するかを考えると分かりやすいと思います。

今回の改訂では、運動・食事、休養及び睡眠という、健康三原則について記載されている箇所がたくさんあります。それはまさに体育と保健の関連付ける際

によいキーワードだと思います。

生活習慣病の予防でも、運動・

食事・休養及び睡眠が大切だと

いうことを学習するわけです。

これまで、全国体力・運動能力・

運動習慣等調査の結果において

も、この健康三原則をしつかり

認識している児童生徒は、週の

運動時間が長いというエビデン

スもあります。そうした資料な

ども活用しながら、体育と保健

を関連付けて指導することも、

有効な指導になるのではないで

しょうか。

今後さらに推進していきたい

と考えています。

細越理事長

解説の読み方から、そして年

間計画、単元計画をどう作るか

といった、まさに今、お悩みの

先生方も多いかと思えます。貴

重なアイデアをいただき、あり

がとうございます。

では「主体的・対話的で深い

学びの実現に向けた授業改善」

に話題を移してまいります。

塩見先生から大枠をお話しく

ださい。

塩見英樹調査官

《主体的・対話的で深い学びの

実現に向けた授業改善》

今回の改訂では、単元や題材

など、内容や時間のまとまりを

見通し、その中で育成を目指す

資質・能力の育成に向けて、主

体的・対話的で深い学びの実現

に向けた授業改善を進めること

が示されました。「主体的・対

話的で深い学び」の具体的な内

容については、答申において以

下の三つの視点に立った授業改

善を行うことが示されています。

一つ目は、学ぶことに興味や

関心を持ち、自己のキャリア形

成の方向性と関連付けながら、

見通しをもつて粘り強く取り組

み、自己の学習活動を振り返っ

て次につなげる「主体的な学び」

が実現できているかという視点。

二つ目は、子供同士の協働、

教職員や地域の人との対話、先

哲の考え方を手掛かりに考える

こと等を通じ、自己の考えを広

げ深める「対話的な学び」が実

現できているかという視点。

三つ目は、習得・活用・探究

という学びの過程の中で、各教

科等の特質に応じた「見方・考

え方」を働かせながら、知識を

相互に関連付けてより深く理解

したり、情報を精査して考えを

形成したり、問題を見いだして

解決策を考えたり、思いや考え

を基に創造したりすることに向

かう「深い学び」が実現できて

いるかという視点。

このような授業改善の視点が

示されたのは、変化が激しく、

将来の予測が困難な今の時代に

おいては、子供たちが自信を

もつて自分の人生を切り拓き、

よりよい社会をつくり出してい

くことができるよう、必要な力

を確実に育んでいくことが重要

だからです。子供たちが新しい

時代を切り拓いていくために必

要な資質・能力を育むためには、

各学校におけるカリキュラム・

マネジメントの充実と併せて

「主体的・対話的で深い学び」

の視点からの授業改善を行うこ

とが求められています。

なお、留意点として、六点示

されています。時間の関係もあ

りますので、その中のいくつか

をお伝えします。

まず、全く異なる指導方法を

導入しなければならないと捉え

る必要はないこと。つまり、こ

れまでも先生方が大事にされて

きた指導を、これからもさらに

大事にしていきましょうという、

そんな捉えをもつていただきた

いと思っています。

また、児童生徒の資質・能力

を育むために示されたというこ

とを改めて念頭に置いて、授業

改善に取り組んでいくこと。さ

らに、一回一回の授業で全ての

学びが実現されるものではなく、

単元など内容や時間のまとまり

の中で実現を図っていくもので

あること。

そして、深い学びの鍵として、

「見方・考え方」を働かせるこ

とが重要になること。基礎的・

基本的な知識及び技能の習得に

課題がある場合には、その確実

な習得を図ることを重視するこ

と。こういった点に留意して取

り組んでいただきたいと思います。

関伸夫調査官

この「主体的・対話的で深い

学び」については、現場の先生

方に対して、解説に書いてある

文言だけで説明するのはすごく

難しいと思っています。

解説では、三つの学びの過程

を相互に関連を図ることが重要

だと示していますが、ここでは

それぞれについて考えてみたい

と思います。その前提として、

「主体的・対話的で深い学び」

について、子供たちの学びの様

相を、教師がイメージできるこ

とが大切ではないかと思ってい

ます。

解説には、例えば主体的な学

びで想定される視点として、「運

動の楽しさや健康の意義等を発

見し、運動や健康についての興

味や関心を高め、云々」と書か

れています。この部分を確認し

ていただくことが大切だと思

います。

主体的な学びについて「主体

的に学べるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか」と書いてあります。授業の導入で目標が提示されていて、子供たちが今日の学びはどこに向かっていくのかということが理解できている。そして、どのような道筋で自分たちはそのゴールに向かって行くのかといったことが分かっていることが主体的に学習に取り組むためには必要なことだと思います。

そして授業の最後に振り返りをして、今日の授業でどんな自己変容があったのか。こういうことができるようになったとか、こんなことが分かったということとを、子供たち自身が確認することで、次時以降への主体的な学びにつながっていくというところもあると思います。そういう仕掛けを授業の中に埋め込んでいくことが大切なのではないかと思っています。

次に、対話的な学びについては、解説にも「対話によって自

己の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか」と書いてあります。このことから、自分の考えを広げ、深めるためには、まず自分の考えをきちんともっていることが大切です。授業で唐突に「今日はこの課題について話し合います。それでは、五人のグループになつて話し合いを始めてください」となると、自分の考えをもっていない状況でグループ活動に参加することになってしまいます。そうしたことにならないために、

まず個人の考えをまとめる時間を作ることが考えられます。そしてその後、グループで話し合いをしてみようと進めると、「自分の考えは〇〇さんの考えとこの部分が違うんだ」と明確になつていく。そういった学びが大切なのだと思います。対話的な学びというのは形だけではなくて、学びのある活動にしていることを大事にしていたかどうかと思っています。

それから深い学びについては、先ほどお話しさせていただいた

とおりです。子供たちの頭の中で知識と知識が結びついて生きて働くものになっていく。そういう方向に子供たちを誘うことができれば素晴らしいと思います。そのためにはやはり、教師の発問が大きな役割を担っていると思っています。

横嶋剛調査官

「主体的・対話的で深い学び」というキーワードは多くの学校で見かけます。中教審の答申でも保健の課題として、「健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分」だということ指摘されています。まさにこれは、「主体的・対話的で深い学び」につながる課題だと思えます。また、二〇一八年のPISA調査の結果でも、特にCBT調査において習得した知識を活用する学習が苦手という結果が出ています。

「主体的・対話的で深い学び」の中で、対話的な学びについては、保健の場合、「時間がありません」と言われます。四十五

分とか五十分の時間の中に話し合い活動を入れると、時間が足りない、指導する内容が盛りだくさんで困るという相談を受けます。この対話にもいろいろな形があり、例えば隣の人と二分間話をするのもよいわけです。また先哲の考えを踏まえるでもよいわけですから、授業に合わせる、いろいろな形態を工夫してくださいとお願ひしています。

この「主体的・対話的」な学びを、どうやって「深い学び」につなげるかについては、教師がその時間について深い学びのイメージをもっていないといけないと思います。先生方に、「本時の子供たちの深い学びの姿は、どんな姿ですか」と問うのです。が、なかなか考えが及ばない場合が多いようです。

よく例示するのは、対話的な

学びとしてグループワークを行っているときに、自分の考えと違う意見が出てきた。そこで新たな課題を発見して、解決するための手立てを考えることも想定されるということです。ま

た、「思考・判断・表現」だけではなく、「知識」でも、深い学びがあるという話をします。「知識」に重点を置いた授業でも深い学びをイメージする必要があります。保健の知識は、何となく分かっている知識が多いんですね。ですからそれを、学習することによって確実な知識にしていくことや、具体的なものが分かったり、また関連する様々な知識につなげて言ったりすることが考えられます。そういう意味では知識を中心にしても深い学びをイメージする必要があります。

教科の目標で示されている「見方、考え方を働かせ」という言葉を踏まえ、見方、考え方を働かせていかに深い学びにつなげていくかということが大切だと思っています。

塩見英樹調査官

まず、主体的な学びについて、授業場面で考えてみたいと思います。授業の導入で、子供が「楽しそう」、「挑戦してみたい」

と思えるような導入は大事だと思います。

逆に、「難しそう」、「怖そう」といった導入では主体的な学びにつなげていくことは難しいのではないのでしょうか。

指導に当たっては、子供にとつて分かりやすい規則やルールであったり、少し頑張れば達成可能な目標であったりすることが考えられます。「楽しそう」、「挑戦してみたい」と思える導入の中で、子供たちが運動に取り組んでいく。そして、見通しをもち、粘り強く取り組んだり、自己の学習活動を振り返って次につなげたりということがその後の学習では大事です。そのために、単元の計画を示したり、視点を明確にして子供たちと学習を振り返ったりしていく、そんな指導や支援が大切になってくると思います。

ボール運動系の学習を例に考えます。ゲームの中で、対戦相手に勝つために、作戦をまずは個々が選び、その後、チームで交流をするということがよくあると思います。その際、個々で考えていたときには思いもつかなかった作戦も、チームの友達や仲間と交流することで新たに気付かされたり、作戦の内容が広がったり、深まったりということがあると思います。さらに教師との対話で新たな視点が得られることも考えられます。学びが深まっていくところに、対話的な学びのよさがあると思います。

そして、「各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせ」とあります。小学校新学習指導要領解説体育編の中では、「体育の見方・考え方」について、以下のように示しています。

「体育の見方・考え方」とは、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適正に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」であると考えられる。

授業においては、子供が運動することの楽しさや喜びを味わえるようにしていくとともに、各種の運動を「体育の見方・考え方」を働かせて、関連付けて考えられるようにすること等が求められると思います。

細越理事長

最後に、深い学びについてです。答申では、「深い学びの実現に向けた授業改善の視点」と

生たちが押さえておくべきポイントを整理する必要があるかと思っています。

また、こうした学習過程で大事なものは、課題解決の学びをすることだと思うのですが、その課題の設定だったり、解決の工夫だったり、解決に至る道筋をどうイメージして具体化するかを考えていくことが大切だと思うのですが、いかがでしょうか。

横嶋剛調査官

《『主体的・対話的で深い学び』とアクティブ・ラーニング》

五年前、私が文科省に入省した頃は、中教審でもアクティブ・ラーニングという言葉が使われていました。先生方に少し誤解があったのは、アクティブというのは、授業自体に動きがあったり、子供たちが話し合い活動をしたり、体育であれば、活動している時間が長かったりするなど外見的なアクティブが取り上げられていたと思います。

この「アクティブ」というのは、脳（思考）がアクティブに

働くということですが、それがなかなか伝わりにくく、また一つの学習手法であるアクティブ・ラーニングではなく、「主体的・対話的で深い学び」という文言を用いることになったと認識しています。

この「主体的・対話的で深い学び」は、課題解決的な学習につながる表現なので、より分かりやすくなったと思います。

最近参観した授業の中で、「主体的・対話的で深い学び」と思ったりありました。高等学校の応急手当の実習の授業で、生徒たちが効率よく動いて、教師も事前に知識や手順をしつかりと指導していたため、時間内に予定していた内容ができました。知識や技能が生徒たちに身に付いている状況が伺えました。しかし、その先生に「この授業で子供たちが応急手当をする上での課題を何か見付けたり、新たな課題を解決したりするような活動はありましたか」と聞いたら、質問の意味がよく分からないようにでした。

それは教師主導でも子供たちが動いていれば、アクティブだと思われていた様子でした。この先生は次の時間にもう一回実習を行い、今度は場の設定や、注意するポイントなどを生徒に考えさせて、グループごとに異なる場面設定で行いました。すると生徒たちの表情が違ったのです。自分たちで考えた課題で、例えば救急車を呼ぶときにどういう伝え方をしたらいいのか、場面設定でも体育の授業のとき、歩いている人が倒れているときなど、様々な場面がある。だから知識を得ても万能ではないということに気付き、実際の場面では応急手当がとても難しいという課題をもつ生徒たちも見受けられました。

実習後、各班の課題や活動について情報交換する時間を設定し、情報を共有することで、新たな知識や考えに触れ、学習が深まったことが伝わってきました。

塩見英樹調査官

アクティブ・ラーニングについては、私自身、現場の教員であつたときに、目にしたり、耳にしたりしました。その際に同僚とよく話していたのは、「アクティブという言葉の意味を十分に考えず、活動あつて学びなしにならないように取り組んでいく必要があるね」ということです。ただ活動さえすればいいでは絶対ない、子供たちに付けたい力を育んでいけるような授業を、楽しい活動を仕組みながらも目指さなくてはいけないよねという話をしていたことを今、思い出しています。

今回、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」とも、決してそれが目的ではなくて、絶え間なく行うことによつて、三つの資質・能力を育んでいくということは忘れてはならないと思います。その中で、例えば、課題解決の場面について、どういったことを大事にしたいのかわかるとか考えてみたいと思います。

国立教育政策研究所（以下国研と称す）の事業として、全国でいくつかの学校に研究協力校として取り組んでいただいているのですが、授業を拝見する中で、大事なと改めて思ったことがあります。それは、課題解決をする場面で、例えば跳び箱運動でしたら、子供たちが、「ぼくは台上前転ができるようになりたい」「私は首はね跳びができるようになりたい」と思えるような状況に上手に先生方が導いていかれていました。その上で、挑戦する技が同じ子供同士で互いに気付いたことを伝える場面を設定していました。また、ゲームでは、勝ったり負けたりといったゲームの楽しさを十分に味わわせていく中で、「前回の対戦では負けてしまったけれども、次は作戦を工夫して勝とうね」とチームの中に勝ちたいという状況を上手につくつておられました。子供たちの学びの中に対話的な学びが自然に生み出されるような状況を授業の中に作り出されていました。授業

を拝見していて、子供たちが楽しさや喜びに触れたり味わったりできている状況にあるかどうかということは、すごく大事なと感じました。「あの技ができるようになりたい」と子供が思っていないのに、対話的な学びを仕組んだとしても、そこには必要感が生まれにくいし、「どうせゲームをしても相手が強すぎて勝てない」とか、「ルールがよく分からない」とか、「ボールが硬くて当たると痛いから怖い」という中で、作戦を選ぶといつても、そこには現実味が伴わないことがあるのではないのでしょうか。先生が意図的に対話的な学びを單元の中に仕組んでいく。すると、子供たちの中に「手をもつと前に着いたらいいんじゃない」とか、「空いている場所があつたから、今度はそこを攻めていこうよ」と対話が自然に生まれてくる。そして、対話的な学びを重ねていく中で、「うまくできたね。また次も頑張ろう」という対話的な学びの楽しさを味わわせていく。その

ような授業改善の取組を絶え間なく仕組んでいくことが大切であることを、研究協力校の実際の授業を見て感じていたことがありました。

吉原理事

ありがとうございます。

アクティブ・ラーニングと「主体的・対話的で深い学び」についてよく分かりました。

私は中学校の教員でしたが、体育だと「子供たちが動いていればアクティブ・ラーニングでしょう」というような発言も聞かえてきたことがあります。でも、本当に取り組まなくてはいけないのは、この「主体的・対話的で深い学び」を大切にしたい学習過程だということを、先生方がきちんと理解をして指導に当たることだと思っています。子供たちにとって有効な学びにしていけることが大事だと、改めて感じています。

関伸夫調査官

もともとこのアクティブ・ラー

ニングは、二〇一二年の中教審の、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」という答申の中で出てきています。そこでは、「教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」ということが記載されていました。今回、平成二十八年十二月の中教審の答申では、アクティブ・ラーニング

の視点からの授業改善について、「形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではなく、子供たちそれぞれの興味や関心を基に、一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出すことを意図とするものであり、さらにそれを通してどのような資質・能力を育むかという観点から、学習の在り方そのものの問い直しを目指すものである」と示されています。

細越理事長

先生方、ありがとうございます。先生方、ありがとうございます。

そもそもアクティブ・ラーニングは大学の授業改善からでした。でも気づいたら、小・中・高の先生方がこの「主体的・対話的で深い学び」をどのように具現化していこうかと、熱心に授業改善に取り組む状況になっていると思います。やはり新学習指導要領等、国から発信されるメッセージの大きさ、強さというのを実感しています。だからこそ、これから教員を目指す学生もそうですが、学校で指導されている先生方が、「これって、深い学びになるのかな」と考える機会、授業の経験や、研修などが大事になると思います。

先生方の心が動くような、脳と心が動くような、そんな研修等の場面も作っていくことが必要だと思っています。

では今日の三つ目のテーマ、「指導と評価の一体化について」です。評価の参考資料も出されましたし、これからの学習評価についてお願いします。

関伸夫調査官

《これからの学習評価》

学習評価についてはこれまで、学校や教師の状況によって、学年末とか学期末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない、あるいは教師によって評価の方針が異なっていて、学習改善につなげにくい、という課題が指摘されていたところです。

新しい学習指導要領の総則においては、「学習評価の充実」という項目が新たに置かれまして。そこでは単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、

学習の過程や成果を評価し、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくことの必要性を示しています。

これらのことを踏まえて、平成三十一年三月二十九日に、文部科学省の初等中等教育局長名で「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」という通知が発出されました。ここでは学習評価の改善の基本的な方向性として三点挙げられています。一つ目は、児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと、二つ目が教師の指導改善につながるものにしていくこと、三つ目が、これまで慣行として行われてきたことでも、必要性、妥当性が認められないものは見直していくこと。この三点です。「学習評価の充実」に当たっては、いわゆる評価のための評価に終わることのないよう、指導と評価の一体化を図って、学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視して、児童生徒が自

分自身の目標や課題をもって学習を進めていくための評価が重要であると考えています。

横嶋剛調査官

《指導と評価の一体化》

指導と評価の一体化については、これまで話し合った二つのテーマと関連付いていると思います。国研が作成している学習評価の在り方ハンドブックには、『主体的・対話的で深い学び』の視点から授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価が重要な役割を担っている」と書かれています。ですから、この「指導と評価の一体化」に直結していると考えています。

その中で先生方に申し上げるのは、まずは指導と評価の計画をしっかり作成してほしいということ。まず単元を通した目標と本時の目標があつて、それをどう指導して、どう評価していくかということを一体として考えていく必要があると思います。そうした指導と評価の計

画をしっかり作成してくださいとお願いをしています。国研で出している冊子の事例などもあるのですが、決められた様式はないので、形式などは、地域や学校で独自に考えてもよいと思います。その際、項立てや評価規準などについては国研の資料を参考にされるとよいと思います。

それから、単元の評価規準をしっかりと設定してほしいということです。従前までは単元の評価規準に加えて、評価規準の具体例（学習活動に即した評価規準）を設定していました。評価規準を二種類つくらなければならなかったわけですが、今回は単元の評価規準を用いて、授業でも評価するという事例にしています。

保健の場合は、解説において内容として示している「知識及び技能」のうち「理解できるようにする」、また「できるようにする」と示しているところは評価規準として設定していただくようにお願いをしています。また、「思考力、判断力、表現

力等」については、内容のまとまりごとに評価規準を示しており、前文に加えて事例を示しています。その事例の中で課題発見、課題解決、表現の内容が全て盛り込まれています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、解説には内容を示していませんから、単元の目標や改善等通知の観点及びその趣旨等を踏まえて評価規準を設定することになります。

この指導と評価の一体化の中心になるのは、やはり指導の工夫だと思っています。いかに指導を工夫するかによって、どう評価するかが見えてくると思います。最後に、今回、新学習指導要領の中にカリキュラム・マネジメントがキーワードとして示されていますが、「指導と評価は教育活動の根幹」だと述べています。ですから、学習指導と学習評価を根幹として計画を立て、進めてほしいと思います。

塩見英樹調査官

まずは、何のために評価を行

うのかという点について考えてみたいと思います。そもそも論になつてしまふかもしれないのですが、その点をしっかりと一人の先生方がもつことが大事だと思っています。

子供たちの資質・能力を育ていくために、実際の授業の中で子供たちの学習の状況を見取り、努力を要する状況等の判断をされたのであれば、指導や支援を行うことによっておおむね満足できる、あるいは十分満足できる状況にしていく。

次に課題についてです。コロナ禍で決したたくさん授業を見ることができたわけではないのですが、いくつかの授業を見の中で、課題も見えてきました。例えば、低学年の授業で、単元の時間数も四時間、あるいは五時間扱いなど、限られた短い時間の授業を例に挙げます。その単元における評価規準が九つあり、四時間、あるいは五時間の中に全ての評価規準を設定したとします。

れとこれでしたけれども、努力を要する状況と判断された子供はどの子供でしたか」と授業後に尋ねると、見取り切れていなかったことが分かり、事後の協議会で今後の課題として共有したことがありました。

アクティブ・ラーニングについて、活動あつて学びなしということが話題にあがりましたが、今回見えてきた課題も、似たようなことが言えると思います。つまり、評価規準があつても、評価活動が十分に行われないと、次の指導に生かされないということです。改善策としては、一時間につき一から二程度の評価の観点を設定するなど、無理のない計画を立てることが考えられます。その上で、見取る時間に向けて、その時間、前の時間、もしくはその前の時間から、指導や支援を計画的に行っていく。そして、子供たちの学習の実現状況を確認した上で、次の指導や支援に生かしていく。その繰り返しだと思います。

評価規準の作成の手順等、詳

細については、評価の参考資料に記載してありますので、ぜひ、参照し、実際の授業で役立てていただけたらと思います。

関伸夫調査官

指導と評価の一体化に向けて前提となるのは、指導内容の正確な理解であると考えています。育成を目指す資質・能力とはどのようなものなのかということを、まず理解するということが、実は学習評価を考える上で一番大切ではないかと思っています。

評価する対象、いわゆる育成を目指す資質・能力は何なのかというのを、しっかりと確認して、授業を組み立てて、そしてそれを評価していくということが大切なポイントの一つと思っています。

それから、指導と評価の計画です。これは今回の指導と評価の一体化の根幹になる部分だと思っています。定型があるわけではありませんが、単元の目標、学習の流れ、評価の機会、評価の場面、そして評価規準などの

内容が網羅されていて、どこで、いつ、どの学習活動のときに何を評価するのかということをデザインすることが重要です。この単元等をデザインする力が、今後一層教師に求められていくのではないかと思います。

また、中学校と高等学校では、新学習指導要領解説に資質・能力ごとに指導事項の例示がされています。国研で作成した評価の参考資料では、この例示の文末を変換すれば単元の評価規準になる事例を示しています。これまで単元の評価規準等の文言作成にかかっていた時間を、子供たちにどこで何を指導するのか、どう単元を充実させていくのかに使っていただきたいと考えています。

それから、評価したらそれで終わりということではありませんので、例えば十時間の単元の中で、ある観点で三時間目に努力を要する状況「C」と判断された生徒については、その単元は「C」で決定、ということではなく、その生徒をその単元の

残りの時間で指導をして、おおむね満足できる状況「B」以上にしていくというように、評価したことをまた指導に生かすということが重要だと思っています。そういう意味では指導したことを子供たちの学習改善、教員の指導改善に生かしていく、必要に応じて形成的な評価をしながら、授業を進めていくということが重要なことだと考えています。

細越理事長

ありがとうございます。今、先生方に評価についてお話いただきましたが、この他にいくつかお話を伺えたらと思います。

一点目は、今回観点が三つになりましたが、その三つの観点の比率をどう考えるかです。これについていかがでしょうか。

関伸夫調査官

指導と評価の一体化を図ると、三つの資質・能力をバランスよく育成するということを踏

まえて、総括するというのが基本的な考え方です。学習のねらい、指導したことをバランスよく評価するというのが大切だと考えます。

細越理事長

ありがとうございます。

次は、「主体的に学習に取り組む態度」についてです。小学校体育と体育分野の場合は、アからオなり、カまで、指導する内容が具体的に例示がされておりますので、それについて指導をして見取るということになると思います。その際、自己調整とか粘り強さについてはどうするのか、改めてご説明いただくとありがたいです。

塩見英樹調査官

小学校の運動領域においては内容を示しているので、その内容を学習していく中に、粘り強い取組を行おうとする側面と、自ら学習を調整しようとする側面が内在していると捉えております。

愛好的な態度について、例えば高学年のマット運動の学習で、知識及び技能の習得を目指して、粘り強く取り組む。また、取り組む際には自己の能力に照らし合わせたり、単元の時間数を鑑みたりする中で自ら学習を自己調整していく。公正や協力については、自己の態度を振り返り、行動や考えを調整する。共生については、意見の異なる仲間の考えや取組を認めようとする中で、二つの側面が働くことが考えられます。安全についても危険を回避したり、安全を確保したりする中で、同様のことが言えると思います。

横嶋剛調査官

保健については他教科と同様に、内容が示されていませんので、それぞれの知識の習得の過程や、「思考力、判断力、表現力等」の育成の過程において、自らの学習を調整しようとする側面とか、粘り強い取組を行おうとする側面について評価していくこととなります。保健の場

合、今回の国研の冊子の中では、単元の後半に記録に残す評価を位置付けました。最後の一時間だけで評価をするのかというと、そういうことではなくて、単元を通して積み重ねてきたものを、最後に総括するというイメージになります。

吉原理事

一つ質問をいいでしょうか。観点が三つになって、これまでも四つの観点でも、この内容や言葉だったら、どの観点に入ればいいのかと迷うようなところが結構ありました。このことについてお聞きしたいです。

一つ目は「運動の楽しさや喜び」です。これが今回、「知識及び技能」の内容で示されています。しかし、評価の資料では、「評価の観点の趣旨」の「主体的に学習に取り組む態度」に、「運動の運動の楽しさや喜びを味わう」と示されています。どちらで確認すべきかというのが難しいです。

また、「伝える」という言葉、

アドバイスとか助言ということも含めて、伝えるということだと、相手に分かるように伝えるとなると「表現」になり、主体的に伝える、積極的に伝えるでは「主体的に学習に取り組む態度」になるのかと迷います。簡単に棲み分けはできないものだと思いますが、どのような視点で見えていくべきだと思います。例えばあれば教えていただきたいと思っています

関伸夫調査官

《評価内容の三観点の棲み分け》

中学校・高等学校の学習指導要領では「知識及び技能」で、「次の運動について、〇〇の楽しさや喜びを味わい」と示されていますが、「楽しさや喜びを味わっているか」ということそのものについてを評価の対象とはしていません。それ自体は指導の方向目標であるという考え方です。

塩見英樹調査官

積極的に伝えている姿に対し

て、どちらで見取っていくのかという場面は十分に考えられます。ポイントは、授業の中で子供たちが伝えているという場面設定をしたのであれば、どういう場面設定なのかということによって、変わってくると思います。

子供たちが学んだことを伝えていくような授業展開を考えたのであれば、「思考・判断・表現」で見取っていくことが考えられるし、子供たちが単元全体を通して積極的に学習に取り組むような姿を目指している中で見取るのであれば、「主体的に学習に取り組む態度」で見取ることが考えられます。つまり、授業者が、どういう位置付けの中で見取ろうとしているのかが問われているのだと思います。

細越理事長

ありがとうございます。最後はぜひ、全国の先生方に、先生方からお一言ずつコメントをいただいて、この会を閉じたいと思います。

塩見英樹調査官

《結びの言葉》

ここまで、新型コロナウイルスの影響によって、体育の授業を行いたいんだけど、なかなか思うように実施することができない。密になるから避けようといったようなジレンマを抱えながら、でもできることの中で、育成を目指す資質・能力を育んでいこうという実践が全国各地で行われてきたかと思っています。先生方のご努力には、心からの敬意を表したいと思います。

先生方の原動力は、常に「目の前の子供たちのために」という思いなのだと感じています。目の前の子供たちのために、今、どんな力を付けなければならいいのか絶えず意識しながら、目の前の子供たちに届く体育授業をこれからも実践していただきたいと思っています。私も先生方をしっかりとサポートできるよう、頑張っていきたいと思っています。

関伸夫調査官

今日はどうもありがとうございます。

コロナ禍になって何もできないのではないかといいところから、何ができるかということを探した一年半だったのではないかと思います。現場の先生方、あるいは各自自治体の様々な取組を拝見させていただいて、本当に頭の下がる思いです。体育、保健体育は何を教える教科なのか。このことについて我々はしっかりと考えていかなければいけないと思っています。

学校教育において必要とされる教科、科目であるためには、体育、保健体育で身に付けることを目指す資質・能力とは何かを理解して、実践していく、そして発信していくということがますますこれから求められていくのではないかと考えています。引き続き、全国の皆様のサポートができるように努めるとともに、皆様にご協力をいただきながら、体育・保健体育の充実・発展に向けて力を尽くして

まいりたいと思います。どうぞ
よろしく願います。

横嶋剛調査官

今日はありがとうございます。
た。

今回のコロナ禍で、より健康
の大切さというものが実感でき
るときなのではないかと思いま
す。教師も、子供たちも、保護
者も、健康に関する学習の大切
さを実感しているこのときにこ
そ、授業改善に取り組む、体育・
保健体育のさらなる推進につな
げていきたいと考えております。

細越理事長

先生方、ありがとうございます。
した。

令和の日本型学校教育、個別
最適な学び、協働的な学びなど、
これからの教育を見通すキー
ワードも見られる中で、他教科
との関連も含めて、体育・保健
体育がどう進んでいけばいいの
か、先生方に引き続き教えてい
ただきたいことがまだまだたく
さんあります。また機会を改め

まして、お話を伺えればと思い
ます。

先生方、今日は本当にありが
とうございました。

吉原理事

先生方、長時間にわたって貴
重なお話をいただき、心からご
礼申し上げます。

全国の先生方がこれからの授
業を行っていく際、参考にした
り、確認したりできる大事なお
話ばかりでした。

それでは、菅原事務局長より
終わりのご挨拶をさせていただきます。

菅原事務局長

三人の教科調査官の先生方
が、このように一堂に会して、
それぞれのお話を伺えるという
ような企画は滅多にないことだ
と思います。学体連にとりまし
て、この会報の最初のページを
飾る特集です。全国の四十三万
人おられるという体育・保健体
育の授業に携わる先生方は、三
人の先生方のお話を興味深く、

一生懸命読まれると思います。

私自身は、自分なりに読んでき
た新学習指導要領解説書の文字
が、今日、先生方のお話を伺う
ことによって少しずつ目に見え
るようになってきた、そんなよ
うな気がしております。

全国の先生方が抱える様々な
課題に対して、「解説書の文言
はこのようになっていて、具体
的な場面ではこうなんだ」とお
話してくださいました。本当
に価値ある時間でした。
ありがとうございます。

全国学校体育研究大会 近年度開催地のご案内

第60回全国学校体育研究大会（令和3年度）開催地	愛媛県	令和3年11月11・12日
第61回全国学校体育研究大会（令和4年度）開催地	滋賀県	令和4年11月10・11日
第62回全国学校体育研究大会（令和5年度）開催地	山形県	令和5年11月1・2日
第63回全国学校体育研究大会（令和6年度）開催地	山口県	
第64回全国学校体育研究大会（令和7年度）開催地	北海道	

アダプテッドスポーツを通して スポーツの文化的意義を伝える

石川 雅一 盛岡市立北陵中学校（岩手県）

授業づくりのポイント

「できるようにになりたい」「上手になりたい」と考えている生徒は多い。保健体育への興味・関心の高くない生徒であっても、場の工夫や課題提示、目標設定の仕方によっては「取り組んでみようかな」と考えることが多くある。

このことから、「みんなで」、「みんなが」できるようにするために、お互いに関わりあうことの大切さを意識させ、意欲の向上を図り、運動の楽しさを体感するなかで、「やってみたい」「できそう」「挑戦してみよう」と感じる授業環境となるように、授業計画や構想を立てるようにしている。

①生徒同士の賞賛や励ましの声を大切にする

「お互いに教え合う」「伝え合う」「出来栄を評価する」場面では、仲間からの温かい声か

けや肯定的なアドバイスをするように促す。

②「上手くできない」ところを「見られたくない」生徒への配慮・工夫

「やり方がわからない」「怖い」「できないと恥ずかしい」という消極的な思考が、「できない」「つまらない」につながるつま

ずきの一つと考える。特にも主運動の場面では、お互いの関わりを大切にしながら、小グループで、できるだけ一斉に活動できそうな場を設定し、個への注目が集中しないようにする。

③W・UPの工夫

音楽に合わせながら誰もが簡単に運動に取り組める内容にする。トレーニング色が強くなりすぎないように留意する。

④視覚的資料、手作り教材・用具の工夫

学習してきた過程や、全体で確認したルールや約束事、技能のポイント等が蓄積していく形

となるように整理して掲示し、確認したいことがいつでも確認できるようにする。つまずきの解消、肯定的なアドバイスの一助となるようにする。

学習計画

「復興五輪」として位置づけられている東京2020オリンピック・パラリンピック開催年度であることから、岩手県との関わりや、県出身のオリンピック出場選手を紹介しながら、文化としてのスポーツの意義、国際的なスポーツの役割について考えを深められるようにした。

また、アダプテッドスポーツの一つである「ゴールボール」を授業の柱に据え、スポーツが様々な違いを超えて人々を結びつけることや、ルールや工夫の仕方によって、誰もがスポーツを楽しめることなど、新たな視点を通して深く学んでいくことを授業のねらいとした。

【単元名】文化としてのスポーツの意義

	1	2	3	4	5	6
学習計画・学習内容	1 現代社会におけるスポーツの文化的意義 ・「する」「見る」「支える」「知る」の各視点において、どのようなスポーツの意義、価値があるかを考える 2 国際的なスポーツ大会の役割 ・東京2020オリンピック・パラリンピックを例に、国際的な大会の役割を考える（国際親善、世界平和、フェアプレー、マナー等） ・東京2020オリンピック・パラリンピックと岩手県の関わりについて学ぶ（復興五輪と岩手県の産業、岩手県出身の出場候補選手、出場選手等） 3 人々を結びつけるスポーツ ・言葉が通じなくとも楽しみや感動を共有できる ・障がいの有無を超えるスポーツについて学ぶ → 「アダプテッド・スポーツ」、「パラ・スポーツ」 4 やってみよう「ゴールボール」 ・競技の紹介、（特徴、ルール等） ・体験から感じたこと、競技性を深める ・簡易大会（リーグ戦） ・まとめ（「アダプテッド・スポーツ」、「パラ・スポーツ」を通して障害のある方々への理解を深める）					

復興オリンピック・パラリンピックには
岩手県産の花や木材が使われています。

今大会では、いろいろなところで岩手県産のものが使われています。メダリストに贈られるピクトリーブーケが3大会ぶりに復活。このブーケには、岩手県産の紫色のリンドウが「世界に誇れる日本の夏の花」として使用されます。ブーケ約5000束に、岩手県産のリンドウが1万5千本使われます。

世界中の人に岩手を知ってもらいたいね



岩手県産の花
「リンドウ」が
ピクトリーブーケに
使われている

復興オリ・パラと岩手の関わりを学ぶ
「復興オリンピック・パラリンピック
応援ガイドブック」より
発行：東京2020オリンピック・パラリンピック
聖火事業等岩手県実行委員会

仮設住宅のアルミ廃材が
聖火トーチに使われています。

東日本大震災津波後、復興に向けて生活する人々の暮らしを支えた仮設住宅。この仮設住宅で使われていたアルミサッシが、聖火リレートーチに生まれ変わりました。



仮設住宅の廃材が
トーチに生まれ変わって
なんて知らなかった！

東日本大震災
仮設住宅の
アルミ廃材が
聖火トーチに

やってみよう
「ゴールボール」



床のラインで
位置と方向を確認

課題
アダプテッド・スポーツ (合わせたスポーツ)
パラスポーツ (もう一つのスポーツ) について知る



既習事項を
整理して
体育館に
掲示



ナイスセーブ！
賞賛の声

【学習カードまとめより抜粋】 問：障がいとスポーツの関わりについて自分の考えを書きましょう

- ・多様性を認め、障がいがある人と一緒に何かをすることの素晴らしさを感じることが大切だと学んだ。
- ・パラスポーツは今まで障がいがある方のスポーツだと思っていたけど、障がいのある方とない方が一緒にスポーツができるようにルールを工夫したもののだということを知ることができた。
- ・「できない」という考えは存在しないと思った。ルールや用具を工夫することができればみんなで楽しむことができるとわかった。
- ・パラスポーツの認知度はまだまだ低いと思った。だからもっと知りたいと思ったし、いろいろな人に広めていきたいと思った。
- ・スポーツをすることは、障がいのある人もない人もとても好きだと思うので、一緒に同じルールで楽しむことができる環境づくりがとても大切だと思う。

新たな視点で
スポーツの
文化的意義の
学びを深める

保健体育授業における協調学習

齋藤 優気

埼玉県立大宮高等学校（埼玉県）

授業づくりのポイント

○授業を計画・構築すること
たつて重点をおいていること

・「単元を貫く問い」と「単位時間の問い」を生徒に提供する。授業づくりにおいて、問いの設定が最重要であると考えている。魅力的かつ生徒が本質にせまることができるような問いの設定を心がけている。

・生徒の学びの質・量・幅・角度・深さを常に考慮して「指導・学び・評価の一体化」となるようにしている。「指導と評価の一体化」だけでは生徒不在であると考ええる。

・学習目標、内容、育てるべき資質と能力を明確にし、それをどのように評価するかから授業デザインをスタートしている。学習プロセスを「ゴール↓基礎↓応用↓ゴール」とすることで生徒の学習ニーズと学習ゴール

の明確化が図れ、学びにつながりがうまれるようにしている。

・手段が目的化しないよう、目的と手段を明確に分けて学習活動を設定している。

○子供たちへの指導、働きかけ等で特に心がけたり、実践したりしていること

・教師と生徒のつながりだけでなく、生徒同士をつなぐよう意図的に働きかけている。答えを明確に提示するのではなく、それぞれの学びを広め深められるような声かけや介入の程度とタイミングに細心の注意を払っている。

・思考フレームワークを思考ツールとして生徒に提供し、生徒が自ら思考・判断・表現（言語化）して、自ら学びを広げ深められるようにしている。（例）視点・視野・視座、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ラテラルシンキング、縦

軸（未来・現在・過去）と横軸（国・地域）

・言語化することを常に生徒に要求している。

学習計画 等

○学びのゴール（身に着けさせたい資質・能力）を明確にした上で、以下の点に留意して授業をデザインした。

【学びのゴール（身に着けさせたい資質・能力）】

スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となつていることに気付いている状態

【知識】

・学習内容の明確化
・課題発見、課題解決
・「単元を貫く問い」と「本時の問い」の相互関連

・評価ループリック設定

【思考力、判断力、表現力等】

・習得した知識を活用

・自己や社会についてのスポーツの意義や課題を発見

・持続可能な発展につながるよい解決への探究

・様々な視点・視野・視座から思考し判断

・他者との関わり

・自己の考えを言葉や文章などを通して他者に筋道を立てて伝える

・評価ループリック設定

【学びに向かう力、人間性等】

・スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について自ら進んで理解

・課題を発見するための意見交換などの学習に自ら進んで取り組む

・他者と関わりながら主体的かつ対話的に学びを進める

【その他】

・知識構成型ジグソー法を用いた協調学習の適用
・効率的な授業マネジメント（資料の色分け、ICT機器の活用）

《単元を貫く問い》

「現代のスポーツは持続可能な大切な文化として発展・継承されていくか？」

《本時の問い》

「オリンピックは100年後も開催されているか？」

◇知識構成型ジグソー法を用いた協調学習 (collaborative learning)



学習者一人ひとりが主体となって学びながら、他者との関わりを通じて自分の考えを良くしていくような学びを目的としている。「主体的・対話的で深い学び」との親和性も高い。

知識構成型ジグソー法は、協調学習を引き起こすためのひとつの型（仕掛け）である。生徒に課題を提示し、課題解決の手がかりとなる知識を与えて、その部品を組み合わせることによって答えを作りあげるという活動を中心にした授業デザインの手法である。一連の活動は5ステップからなる

Step 1

今ある知識で問いに答えてみる 本時の問いに、既有知識で答える



Step 2

エキスパート活動

問いについて考えるための手がかりとなる3つの違った部品（資料・情報）を提供し、自分の考えを仲間と協調しながら言葉にさせていく



Step 3

ジグソー活動

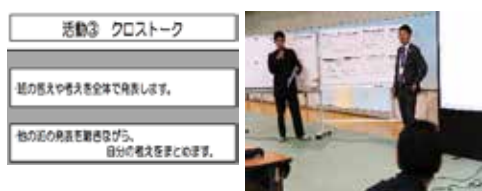
3つの部品（資料・情報）を統合的に活用して、本時の問いに仲間と協調しながらアプローチする



Step 4

クロストーク

教室全体で考えを交換しシェアする



Step 5

個人で答えを作る

本時の問いに改めて答え、考えを再構成する



第五十九回 全国学校体育研究大会 福井大会開催を終えて

福井大会実行委員会 会長 木本 健



部科学大臣表彰（全国学校体育研究最優秀校）、全国学校体育研究優良校、全国学校体育研究功労者、体育授業優秀教員については受賞校ならびに受賞者に表彰状を送付することとしました。

第五十九回全国学校体育研究大会福井大会は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、大会史上初めての大会研究紀要による誌上開催形式で開催させていただきました。

誌上開催形式の内容といたしましては、大会名称は第五十九回全国学校体育研究大会福井大会（期日、令和二年十一月十二日（木）～十三日（金））とし、福井大会実行委員会及び研究発表校・園が、これまで取り組んできた研究内容についてまとめた大会研究紀要を作成するとともに、日本学校体育研究連合会ホームページへの掲載により研究成果を発表することとし、文

各職種において、豊かなスポーツライフのための資質・能力を育むことを目指し、教師の指導と、子どもの主体性や協働性をバランスよく機能させ、子どもが運動する楽しさを実感できる授業の研究を進めてきました。

また開催年は、小学校において新学習指導要領が全面实施となる年であり、中・高等学校においても移行期間が経過し、全面实施に向けた実践事例の提案や、その共有が求められていることを踏まえて、「指導内容・指導方法の工夫」「主体的・対話的で深い学びの実現」「指導と評価の充実」の三つの視点を柱として取り組むことにしました。

幼稚園部会では、友達と心を通わせながら、体を動かして遊ぶ「楽しさそのもの」を十分に味わわせる中で、生涯にわたって運動やスポーツに親しみ、しあわせに生き抜く資質が育まれるとの考えを基本に取り組みま

した。小学校部会では、すべての児童が「運動を好きになること」「楽しさを実感できること」を重視し、すべての実践校で「かわり合う」をキーワードに、仲間と楽しく学習活動に取り組む場を設定し、学びを深めていく児童の姿を目指した体育学習の研究実践を進めました。中学校部会では、「全国体力・運動能力、運動習慣調査」から見えてきた五つの課題の解決が喫緊の課題と位置づけ、「主体的・協働的な活動」を意識的に授業に取り込み、本県の良さを残した「楽しい保健体育」に迫ろうと取り組みました。高等学校部会では、本県独自の「保健体育の授業に関する意識調査」を実施し、各校の課題を明確にした上で、研究の三つの柱をそれぞれ具体化して実践に取り組みしました。特別支援学校部会では、教師側が子どもたちの発意を丁寧を受け取った上で活動を組み立て、子どもたちが「成果」や

「楽しさ」を省察することで新たな発意が生まれるといった、学びのサイクルを大切にすることで、意欲的、主体的に運動に向かう力を育てようとして取り組みました。こうした取組の詳細につきましては研究紀要に掲載してありますので是非ご一読いただき、皆様方からの率直なご意見やご指導をいただければ幸いです。

私たちは、本大会を開催する機会を得たことで、本県の各校種において研究組織が充実するとともに、校種間の連携を図ることができました。このことは、本県の幼児、児童生徒の健全な発育に今後も寄与できるものと感謝しております。最後になりましたが、福井大会開催にあたりご指導・ご支援いただきました関係各位に感謝申し上げます。大会の報告とさせていただきます。

第六十回 全国学校体育研究大会 愛媛大会開催にあたって

愛媛大会実行委員会 会長 中川祐二



いまやかの三つの壘に人満ちて
そぞろに胸のうちさわぐなり

第六十回全国学校体育研究大会
愛媛大会を開催するにあたり、一言、御挨拶申し上げます。

冒頭に記したのは、文学を通して
野球の普及に貢献しました
愛媛の偉人、正岡子規が詠んだ
代表的な短歌です。

まず初めに、長年にわたって
全国の学校体育発展に御尽力を
重ねてこられ、昨年度発足七十
周年を迎えられた公益財団法人
全国学校体育研究連合会に対し、
心よりお祝い申し上げます。

さて、全国的に新型コロナウイルス
イルス感染症が蔓延する状況が
続く中、昨年度の福井大会は、

誌上開催という苦渋の決断をせざるを得ない事態が起りました。福井大会の開催に際し、入念に準備をされ、開催を支えられた関係の方々に、敬意の意を表します。今年度まで、福井大会を支えてこられた方々の学校体育への熱い思いを受け継ぎ、愛媛大会の開催に向けて、総力を挙げて準備を進めてまいりました。しかし、感染症の影響は令和三年度も継続されたままとなり、開催方法について関係の方々と共に、協議を重ねてまいりました。その結果、今年度も参加形式の大会は断念せざるを得なくなりましたが、愛媛の愛顔（えがお）を全国に発信したいという思いが届き、新しい形での発信となるオンライン方式での開催が実現される運びとなりました。本大会の開催に向け、御指導、御支援を賜りましたスポーツ庁並びに日本学校体育研究連合会の方々に、衷心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、文部科学省GIGAスクール構想が前倒しで導入されました。また、新学習指導要領は、幼稚園・小学校・中学校では既に全面实施となり、高等学校においても令和四年度からの年次進行を目前にするなど、各校種において、体育・保健体育学習の具現化が一層求められています。このように、教育界が大きく変動する中で、本大会の開催を迎えました。特に、体育・保健体育学習においては、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎」を育て、「健康の保持増進と体力の向上」を図るための目指すべき子ども像を実現するために、「何のために学ぶのか」「何ができるようになるのか」という学習の意義の原点に立つて、教育の現場から発信していくことが求められています。そこで、愛媛県では、体力や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無等に関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができ

「共生の視点に立った授業実践」と、学びの過程における評価を教師の指導改善へとつなげる「指導と評価の一体化を一層促す授業実践」の県下統一した二つの視点のもと、各校種や各校園が特色ある取組を積み上げてきました。そして、すべての校種にわたって、本県の体育・保健体育学習におけるレガシーを生かしつつ、新しい教育の流れに対する意識を高めることで、本大会主題『主体的・対話的で深い学びを通して、未来につなぐ体育・保健体育学習―仲間とともに「愛顔（えがお）」で挑戦する授業の実現―』に迫ってまいりました。東京二〇二〇オリンピック、パラリンピック開催という記念の年に、正岡子規の短歌のごとく、子どもたちの運動能力や体力の向上を、また教師の体育・保健体育学習の指導力の向上を目標に実践を積

み上げてきた研究の成果を披露させていただく機会が目前となり、胸がうち騒ぐ思いであります。これまでに例のない特別な形での大会の開催となりましたが、本大会に関係していただいたすべての方々と、この思いを共有できることを願っています。本大会では、研究主題に掲げる「未来につなぐ体育・保健体育学習」の実現とみんなの愛顔（えがお）の表出が成果の指標となりますが、大会の成果がどのように表れるかはもとより、今回いただいた貴重な機会を今後どのようにつないでいくかを大事にすることが、持続可能な体育・保健体育学習の未来を拓いていく重要なポイントになると考えています。皆様方には、引き続き御指導を賜りますことをお願い申し上げます。本大会を支えていただきました関係各位に感謝の意を表し、挨拶とさせていただきます。

第60回全国学校体育研究大会 愛媛大会

分科会授業の取組

第1分科会	東温市立北吉井幼稚園
<公開授業領域> 運動遊び	
<分科会研究主題> 戸外遊びを通して、 自ら体を動かす愛顔いっぱいの幼児を育てる	
<授業の見どころ> 戸外での遊びを中心に、幼児が、友達や教師と関わりながら、自ら喜んで体を動かすことのできるような保育を行います。	
<授業者の思い・意気込み> 簡単なルールのある遊びを中心に、教師や友達とやりとりをしたり動きを真似したりして繰り返し体を動かして遊べるようにします。(3歳児) 固定遊具での遊びや、鬼ごっこなどを通して、自分なりに挑戦したり、友達と思いを出し合ったりして思い切り体を動かして遊べるようにします。(4歳児) 友達と一緒にルールのある遊びや構成遊びを進める中で、工夫したり相談したりして体を動かして遊ぶことができるようにします。(5歳児)	
<指導助言者> 愛媛大学 教授 青井 倫子	

第2分科会	松山市立小野小学校
<公開授業領域> ボール運動（ゴール型）「タグラグビー」 陸上運動（走り高跳び）	
<分科会研究主題> 「気付き」「考え」「挑戦する」学びを通して、小さなガッツポーズあふれる愛顔いっぱいの子どもを育てる	
<授業の見どころ> 協働的で問題解決的な学習の中で、小さな満足感や達成感が小さなガッツポーズとなって表れる、そんな体育の授業づくりをしていきたいと思います。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：チームで協力してトライすることを目指します。その過程で自分たちの動きに「気付き」、どのようにすれば得点できるか「考え」、実際に「挑戦する」子どもたちの姿をご覧ください。 公開②：個人競技の走り高跳びをグループで協力し取り組みます。ICTを活用し、自分の動きに「気付き」、高く跳ぶにはどうすればよいか、仲間と「考え」、記録に「挑戦する」姿をご覧ください。	
<指導助言者> 日本女子体育大学准教授 須甲 理生	

第3分科会	松山市立石井北小学校
<公開授業領域> ①保健（病気の予防） ②ボール運動（ネット型）	
<分科会研究主題> 「ちがいを認め合い、子ども自らが「教材」「仲間」「自己」と豊かにつながる学習を通して、夢中になって学び続ける愛顔（えがお）いっぱいの子どもを育てる	
<授業の見どころ> 子どもの実態を出発点として授業をデザインしていきます。課題と「出会い」、課題解決に向けて「挑戦」し、学びの成果や課題を「実感」しながら自ら進んで学習する子どもの姿をご覧ください。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：生活習慣病の予防について、本校の生活習慣づくりの取組と関連付けながら、自分ごととして考えることのできる授業を目指します。自分の生活を見直し、よりよくマネジメントしていこうとする子どもの姿をご覧ください。 公開②：得点を多く取るためにはどうすればよいかという課題を設定し、ゲームを行います。課題解決に向けて仲間と協力し、生き生きと活動する子どもの姿をご覧ください。	
<指導助言者> 筑波大学 准教授 三田部 勇	

第4分科会	伊予市立郡中小学校
<公開授業領域> ①表現運動（表現） ②体づくり運動（体の動きを高める運動）	
<分科会研究主題> 仲間と関わり合いながら、主体的に学び続けることで、活力にあふれた「愛顔（えがお）」いっぱいの子供を育てる～表現運動・体づくり運動の授業づくりを通して～	
<授業の見どころ> 子供たちが自分の課題解決への見通しをもってひたむきに取り組み、自分の伸びを実感することで、もっと体育が好きになるような授業をデザインしていきたいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：場面や状況のイメージをふくらませ、忍者になりきって表現したり、お互いの動きを認め合いながら活動したりする生き生きとした子供の姿をご覧ください。 公開②：仲間との関わりの中で、自分の課題に応じた運動を考える楽しさを味わうとともに、考えた運動に意欲的に取り組み、動きの高まりを実感する「愛顔（えがお）」いっぱいの子供の姿をご覧ください。	
<指導助言者> ノートルダム清心女子大学 准教授 安江 美保	

第5分科会	愛媛大学教育学部附属小学校
<公開授業領域> ①体づくり運動 ②ボール運動（ネット型）	
<分科会研究主題> 「運動や健康」「仲間」「自己」と主体的につながることで、健康で豊かなスポーツライフを実現しようとする愛顔（えがお）いっぱいの子どもの育てる	
<授業の見どころ> 体育科において、健康で豊かなスポーツライフにつながる「子どもたちの胸に深く刻まれる学び」とはどういった姿であるべきなのかを提案します。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：幼児期からつなげてきた運動遊びの集大成として、子どもたちが運動遊びに夢中になりながら、多様な動きを身に付け、運動に対する前向きな姿を高めていきます。 公開②：バレーボールの本質的な面白さである「意図的な攻撃によってラリーを断ち切る」ことを子どもたちと存分に味わいます。	
<指導助言者> 広島県東広島市教育委員会 指導主事 清田 美紀	

第6分科会	松山市立小野中学校
<公開授業領域> ①ダンス（創作ダンス） ②球技（ネット型）「バレーボール」	
<分科会研究主題> 「思考力を高める体育学習を通して、生き生きとした愛顔（えがお）いっぱいの生徒を育てる」 ～問題解決の過程を通して～	
<授業の見どころ> 単元を通して、思考ツールを活用したり、ワークシートを工夫したりすることで、アイデアを可視化し、全ての生徒が生き生きとした愛顔で活動できる授業を提案したいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：ひとまとまりの作品を創作していく中で、組み合わせた動きに「デフォルメ」を加え、作品に奥深さを出していく様子をご覧ください。 公開②：ゲームを行う中でチームの課題に気付き、課題解決に向けて作戦ボード等を活用しながら、主体的に改善していく様子をご覧ください。	
<指導助言者> 東海大学 教授 中村 なおみ	

第7分科会	松山市立城西中学校
<公開授業領域> ①球技（ネット型）「バドミントン」 ②保健（生活習慣病などの予防）「がんの予防」	
<分科会研究主題> 協働的な学習を通して、教え合い、学び合う愛顔いっぱいの生徒を育てる	
<授業の見どころ> 協働的な学びの中で、生徒が主体的に授業に取り組めるように、学習集団の編成方法や学習形態を工夫し、どの生徒も意欲的に活動できるような授業をしていきたいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：男女共習の授業で、性差や能力差を考えたグループ編成や、どの種目にも関わる「投」運動を取り入れた、トレーニング方法など、生徒が主体的に活動する姿をご覧ください。 公開②：がんの予防をするための知識を理解するとともに、元がん患者の実体験の講話をオンラインで聞いたり、質問をしたりし、知識だけでなく、心情面にも訴えかける授業をご覧ください。	
<指導助言者> 茨城大学 教授 吉野 聡	

第8分科会	伊予市立港南中学校
<公開授業領域> ①武道（柔道） ②器械運動（跳び箱運動）	
<分科会研究主題> 協働的な体育学習の充実で、凛とした愛顔いっぱいの生徒を育てる 一課題を発見し、合理的に解決する学習の工夫を通して	
<授業の見どころ> 自他の課題を発見し、合理的に解決する学習の中で、仲間と対話し、支え合いながら運動やスポーツを楽しむ生徒を育成できるような体育の授業をデザインしていきたいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：柔道の固め技（横四方固め）を習得するために、相手を効率よく押えることのできる2か所の体の部位を見付けます。グループで互いに役割分担し、相談しながら試行錯誤を繰り返す対話的な学びの場を設けます。仲間とのかかわりを大切にしていこう姿をご覧ください。 公開②：ICT機器を活用して、跳び箱運動の助走から着地までを互いに撮影し、話し合いを行います。自己の課題解決に向けて、学び合いながら活動する姿をご覧ください。	
<指導助言者> 高知大学 名誉教授 神家 一成	

第9分科会	愛媛大学教育学部附属中学校
<公開授業領域> ①体育理論（運動やスポーツの多様な楽しみ方） ②体づくり運動（実生活に生かす運動の計画）	
<分科会研究主題> 題材、他者、自分自身とつながることで、主体的に運動に取り組む愛顔いっぱいの生徒を育てる 一既有の知識や経験でつながる深い学びを目指して一	
<授業の見どころ> 既有の知識や経験を基にした学び合いを展開する中で、運動の楽しさや喜びを見付け出し、主体的に運動に取り組もうとする生徒が育つ、そのような授業を目指します。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：「スポーツイベントの開催」をテーマに、企画から準備・運営まで、これまで学習したことを生かして思考し実践する場を設定します。その経験を通して、自分流の運動やスポーツの楽しみ方や関わり方を見付けていこうとする姿を御覧ください。 公開②：今まで学習したことや経験したことを基に仲間と意見交換をしながら、実生活に生かす運動の計画を立てていきます。生徒が、自分たちの課題の解決に向けて学び合う姿を御覧ください。	
<指導助言者> 中京大学 准教授 後藤 晃伸	

第10分科会	愛媛県立松山東高等学校
<公開授業領域> ①球技（ネット型）「バレーボール」 ②保健（食事と健康）	
<分科会研究主題> 自ら心身を鍛えることで、主体的に保健体育の生活化を図る愛顔あふれる生徒の育成	
<授業の見どころ> 自分の課題を克服することに高い興味関心を持つ生徒たちに対し、適切な気付きやヒントを与えていきます。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：生徒のスマールティーチャーが活躍する場を設けながら個々の技能を高めます。チームの課題に応じて練習を選択し、積極的に関わりながら学びを深め、ボールをつながる喜びを体感し活動する姿をご覧ください。 公開②：自分の実際の食生活を題材に、食事バランスガイドに従って栄養バランスを調査していきます。班別活動では、仲間と意見交換し、食に対してより深く学ぼうとする姿をご覧ください。	
<指導助言者> 宇都宮大学 准教授 久保元芳	

第11分科会	愛媛県立松山商業高等学校
<公開授業領域> ①球技（ベースボール型）「ソフトボール」 ②体育理論（スポーツと経済）	
<分科会研究主題> 仲間と共創することで生徒の愛顔を育てる 安心感のある保健体育授業の実践	
<授業の見どころ> 男女共習で行う主体的・対話的な学習の実践を通して、「違い」を認め合いながら安心感をもって生徒が活動できる体育の授業を展開します。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：競技スポーツとは異なる視点で考え、習熟度や体力差、性別差を乗り越えてソフトボールの楽しみ方を共創し、すべての生徒が愛顔で活動する姿をご覧ください。 公開②：指導と評価の一体化を目的として、生徒が主役で活動できる単元計画を作成し、対話をつくるICT機器の活用の工夫や、どのような力がついたのかを確認しながら取り組む課題プリントを用いた授業をご覧ください。	
<指導助言者> 長崎県立大村工業高等学校 教諭 松尾 邦彦	

第12分科会	愛媛県立みなら特別支援学校
<公開授業領域> ①ボールを使った運動やゲーム（蹴る楽しさを味わおう） ②体づくり運動（いろいろな動きをしよう） ③体育理論（「誰もが楽しく参加できる」ニュースポーツを作ろう）	
<分科会研究主題> 系統的で協働的な体育学習を通して、運動・スポーツを楽しみ、豊かな気持ちを持ち続ける愛顔（えがお）いっぱいの児童生徒を育てる	
<授業の見どころ> 発達段階に応じて系統立てた授業実践により、児童生徒が卒業後も運動・スポーツを楽しむ気持ちを持ち続けられるような内面に働き掛けた取組を見ていただきたいと思います。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：教材の工夫により、児童に自分の目標を分かりやすく示すことで、達成感を感じ、楽しく活動する姿を引き出すことを大切にしました。 公開②：遊び感覚で様々な運動に挑戦し、生徒同士がお互いに認め合い、主体的に活動する授業づくりを目指しました。 公開③：卒業後の社会参加、将来のパラリンピック種目採用を目指して、グループでニュースポーツを活発に考案する姿を大切にしました。	
<指導助言者> 大阪体育大学 准教授 曾根 裕二	

令和3年度 最優秀校（文部科学大臣賞）受賞校紹介

龍ヶ崎市立城ノ内中学校（茨城県）

<研究主題>

「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する体育科学学習指導の在り方」
——自分の考えを伝え合う協調的な課題解決学習を通して——

<研究の目的>

協調的な課題解決学習を通して、思考力・判断力・表現力等の育成、技能の定着を図るとともに、仲間と共に行う活動を通して豊かなスポーツライフの実現を目指す。

<研究内容と成果>

- 運動の楽しさを味わいながら、合理的に実践することや課題解決について論理的に考え言語化する力や他者に伝える力が向上した。
- 全教科・全領域においてキャリア教育の視点を生かした授業を行った。

川崎市立柿生小学校（神奈川県）

<研究主題>

「一人ひとりができる喜びを感じられる体育学習」
——自分の思いをもって考えながら取り組む子をめざして——

<研究の目的>

誰もが達成感を味わえるような体育授業の在り方について研究・実践を重ね、授業改善を図ることで子供たちが「できる」喜びを感じられるようにする。

<研究内容と成果>

- 子供たちが得た知識を活用し、一人ひとりの課題解決を図る指導計画により「できる」喜びを実感する姿につながった。
- 子供たちが思いをもち、課題解決するためには、教師の意図ある指導が必要であることが分かった。

海南市立東海南中学校（和歌山県）

<研究主題>

「仲間と共に主体的に学び、課題に挑むことで、できる楽しさを味わえる体育学習を目指して」

<研究の目的>

個人では解決が困難な課題に対して、生徒が主体的にかつ仲間と協力して解決を図り、できる楽しさや喜びを味わわせる。

<研究内容と成果>

- ワークシートの改善により自分の成果、課題の確認や自己調整する様子が見られた。
- ICT機器の活用により気付きや修正ができ、技能向上に繋げることができた。
- 異学年との交流でよい人間関係が生まれ、上級生下級生双方に好影響を与えている。

令和3年度 体育授業優秀教員 受賞者紹介

高橋 聡子（たかはし さとこ） 盛岡市立上田中学校（岩手県）教諭

<実績>

平成30年度体育・保健体育指導力向上研修「球技（ネット型）」参加 県内実技研修会講師
令和3年度岩手県体育授業改善研修体づくり運動 支援委員 等

<体育授業における実践>

- 運動の価値や特性への理解について汎用的知識との関連を図り、思考し続ける生徒を育成
- 体育特有の表現としてのアイコンタクト、ハンドサイン、アームタッチ等伝え合う活動の重視
- 多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮して活躍できる公平な機会が与えられる「共生社会」「共生体育」を目指した授業づくりを実践

鳥塚 源太郎（とりづか げんたろう） 深谷市立深谷小学校（埼玉県）主幹教諭

<実績>

令和元年度埼玉県小学校初任者研修授業力向上研修 陸上運動実技指導
令和3年度埼玉県小学校体育実技指導者講習会 陸上運動系領域実技指導 等

<体育授業における実践>

- 児童の実態把握から学習過程を工夫し、すべての児童が確実に学習成果を得られる授業づくりを実施
- 児童同士が対話を通して達成感や満足感を味わいながら、楽しく運動に取り組める学習指導の工夫、ICTの有効活用

渡邊 芳哉（わたなべ よしや） 胎内市立中条小学校（新潟県）教諭

<実績>

令和元年度「体育が苦手な児童生徒のための授業づくり研究大会『体づくり運動系』」参加
県内伝達講習講師、新潟県下越地区研究大会講師 等

<体育授業における実践>

- 児童が目的意識をもって主体的で意欲的に取り組む指導技術及びマネジメント技術
- ICTの活用による視覚的に捉えた児童の困り感や学習課題の共有と課題解決の工夫
- 児童のレディネスを的確に捉えることによる、学習課題の焦点化や児童の向上欲求にそった学習過程の構築

上村 紘史（うえむら ひろし） 宮崎県立みやざき中央特別支援学校（宮崎県）教諭

<実績>

平成24年度九州地区学校体育研究発表大会口頭発表者
令和2年度九州地区学校体育研究発表大会宮崎県学校体育研究発表大会受業発表者 等

<体育授業における実践>

- 特別支援学校での体育・保健体育授業における多様な障がい種に対する深い理解と、児童生徒ひとりひとりの課題に向き合う教育実践による着実な成果
- 生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出す、実態に配慮した学習グループの編成及びカリキュラム・マネジメントの視点に立った指導と評価の整理
- TTによる授業で、T2等の指導者が共通理解をもって取り組める計画、評価規準の作成

令和2年度 各都道府県教育委員会 長期研修生等合同発表大会（今年度開催中止）

【主催】（公財）日本学校体育研究連合会

【目的】 体育、保健体育の指導者の資質向上を図るとともに、各教育機関の教員研修事業の充実に資する。

青野 寛子（取手市立取手西小学校）

【演題】 児童一人一人が運動の楽しさを味わうことのできる体育科学学習指導の在り方
—ゲートボールを基にした易しいゲームの教材づくりを通して—

【概要】

全ての児童が運動の楽しさを味わうことができるよう、ゲーム教材として、ゲートボールを基にした易しいゲーム（コート大きさを縮小し、スティックを使用せずボールは手で投げ入れる）を考案し、授業実践を行った。その結果、本研究で用いた教材が、技能差、性別の差、障がいの有無に関わらず取り組める、「共生」の視点に適応するゲーム教材であることが示唆された。

巻島 瑛貴（柏市立柏第一小学校）

【演題】 体育科における『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた学習指導の在り方
—戦術アプローチによる思考力、判断力、表現力を高めるネット型ゲームを通して—

【概要】

体育科の授業において、主体的・対話的で深い学びを実現し、思考力、判断力、表現力を高めるため、中学年を対象に、戦術アプローチの視点から行った教材づくりや学習過程の工夫を手立てとして、プレルボールを簡易化したネット型ゲームを行った。その結果、児童のパフォーマンスの向上、学習カードの記述や話し合いにおける発話の質的向上が見られ、児童の「思考力、判断力、表現力」が高まった。

藤原 大輔（大野城市立御笠の森小学校）

【演題】 自他の運動の楽しさを大切にする子供を育てる高学年体育科学学習指導
—学習者相互のフィードバックを位置付けた学習過程の工夫を通して—

【概要】

本研究では、子供たちが多様性を受容し合い、自他の運動の楽しさを大切にする共生の態度を育むことを目指した。そこで、課題や動き、頑張り等に対して、思ったことや考えたこと、動きの状態を子供たちで互いに伝える「学習者相互のフィードバック」を、単元の各段階のねらいに応じて、意図的に位置付けた。その結果、子供たちは、自分の運動の楽しさを実感するだけでなく、友達も運動の楽しさを実感できるように行動しようとしたり、友達に感謝しようとしたりすることができた。

西崎 健哉（糸島市立前原中学校）

【演題】 運動する充実感を味わう生徒を育む保健体育科学学習指導
—共生の視点を重視した「共有活動」を通して—

【概要】

本研究では、精一杯運動できた実感、工夫して学習できた実感、仲間と交流できた実感で心が満たされた状態のことを「運動する充実感を味わう」と捉え、そのような生徒の育成を目指した。そこで、様々な仲間とペアやグループを組み、その仲間と互いの動きや課題、挑戦、楽しみ方等の違いを大切にしながら、願いや課題等を共有する「共生の視点を重視した『共有活動』」を意図的に仕組んだ。その結果、生徒は、運動が得意、不得意に関わらず、運動する充実感を味わうことができた。

大和 忠輔（福岡県立北筑高等学校）

【演題】 健康について深く考える生徒を育てる保健の学習指導
—イメージマップを活用した学習過程を通して—

【概要】

本研究では、つくる思考、広げる思考、結び付ける思考を段階的に働かせることを「深く考える」と捉え、健康の保持増進に向けて深く考える生徒の育成を目指した。そこで、1単位時間の導入、展開、終末の各段階のねらいに応じて、考えを広げ、可視化できるイメージマップの活用を位置付けた。その結果、生徒は健康課題を見出し、その原因や解決方法などを考えたり、新たな知識や考え方を付加したりして、それをもとに実生活に生かす方法を考えることができた。

河端 騎史（平塚市立みずほ小学校）

【演題】 学びに向かう力、人間性等が涵養されるソフトバレーボールの学習
—「ONETEAM」と「NOSIDE」の精神を活かしたスポーツ教育モデルによる学習過程を通して—

【概要】

新学習指導要領では、育成すべき資質・能力が三つの柱に再整理された。本研究ではこれまで指導を行ってきた中で、「学びに向かう力、人間性等」を涵養するための指導が十分ではなかったことに着目し、その涵養を目指すため、「ONETEAM」と「NOSIDE」を行動目標として設定し、スポーツ教育モデルの特性を適用した学習過程で検証授業を行った。そこで、その結果等から具体的な学習過程を提案することとした。

忠隈 一也（茅ヶ崎市立西浜中学校）

【演題】 がんを自分事として考え、認識を深める保健の授業
—教科等横断的な視点による道徳の授業と関連を図ったがん教育—

【概要】

中学生は、比較的健康に毎日を過ごしており、がんに係る学習課題を他人事としてとらえていることが多い。また、がんに対する正しい認識を深める教育は不十分であると指摘されている。本研究では、教科等横断的な視点で、心情を学ぶ道徳と関連させた保健の授業を行った。その結果、がんを自分事として考え、認識を深める学習となった。そこで、成果等から授業づくりのポイントを提案することとした。

高橋 直人（神奈川県立相模向陽館高等学校）

【演題】 興味・関心を持ちながら協働的に課題に取り組む保健授業
—新型コロナウイルス感染症を中心とした見える化教材の活用とグルーピングの工夫を通して—

【概要】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められているが、本校の生徒は、主体的・対話的に取り組むことに課題があると考えている。そこで、本研究では、見える化教材の活用とグルーピングの工夫を行った授業を実践し、興味・関心を持ちながら協働的に課題に取り組む保健授業について検証を行った。その成果と課題を踏まえ、保健の授業づくりについて提案することとした。

石川 徹哉（神奈川県立秦野養護学校）

【演題】 運動やスポーツとの多様な関わり方「する」「知る」「見る」「応援する」を理解する特別支援学校における体育理論の授業
—体験活動を通じて、自らの運動やスポーツ活動について考える学習—

【概要】

「新学習指導要領」では、特別支援学校高等部の知的障害教育部門における保健体育科の内容として、体育理論が新たに追加された。本研究では、高等部1年生に対し、体験活動を通じて、運動やスポーツとの多様な関わり方について学ぶ授業を行った。その結果、生徒が運動やスポーツの新たな楽しみ方に気づき、理解することができた。そこで、その成果と課題を踏まえ、授業づくりのポイントを提案することとした。

武田 涼（成田市立美郷台小学校）

【演題】 攻守一体ネット型ゲームを対象とした思考力を高める学習指導の検討
ーシンキングツールを活用した言語活動に着目してー

【概要】

児童の思考力を高めるため、シンキングツールを活用した言語活動に着目し、中学年を対象に攻守一体ネット型ゲームであるハンドテニスの学習指導を行った。その結果、根拠付けられた会話が現出する言語活動を促すことができた。その成果と課題を踏まえ、体育科に合わせて再構築したシンキングツールの有効性と具体的な学習指導について提案することとした。

遠藤 和宏（東松山市立南中学校）

【演題】 仲間と協力し、主体的に学習に取り組む態度を育む体育授業の研究

【概要】

1人で攻撃や守備をすることのできないバレーボールの特性を踏まえ、仲間と協力して課題解決をしていく学習過程の工夫と、成果や課題を理解し次の活動へつなぐ教材や場面の設定によって、運動の喜びに触れやすくなり生徒の主体性を育むことを目指した。その結果、ゲームにおける技能の向上と思考力、判断力、表現力等の高まりが見られ、主体的に学習に取り組む態度を育むことに有効であることが確かめられた。

中嶋 圭一郎（三郷市立早稲田小学校）

【演題】 運動の楽しさを味わわせ、進んで運動に取り組む児童を育成する体育授業の研究

【概要】

中学年の器械運動跳び箱運動を対象に、意図的に「わかる・かかわる・できる」を一体化させた課題解決を仕組んだ学習過程や、課題の発見や解決が行いやすい教材・教具の工夫により、児童が運動の楽しさを味わうことを目指した。その結果、豊かなかかわりの中でよりよく課題を解決しようとする姿が見られ、跳び箱運動における技能の向上、愛好的態度の育成に効果があることが確かめられた。

松岡 伸悟（吉川市立栄小学校）

【演題】 運動の特性を味わわせ、児童一人一人が伸びを実感できる体育授業の研究
ー投の運動（陸上運動系）における指導と評価の一体化を目指した教材づくりー

【概要】

全学年を対象に陸上運動領域での投の運動（遊び）について、投の運動（遊び）のみで短期間で集中的に学習を行う単独単元と他の運動領域を組み合わせ、長期間で技能の定着を図る組み合わせ単元において投動作の粗形態の習得を図った。指導と評価の一体化を図るため、指導する技能を絞り実践を行った。遠投能力の向上、投動作のフォーム得点の向上が見られ、単元・指導・評価計画の有効性が確かめられた。

令和三年度 ジャスぺ 足育（あしいく）の推進について

（足が変われば子どもが変わる
子どもが変われば『未来』が変わる）

昨年度、令和二年度はJASPE足育にとつて創設十年目という節目の記念すべき年であった。しかし、新型コロナウイルスの猛威にさらされ、感染拡大が続く中、これまで積み重ねてきた小学校や幼稚園などにおける出前授業や対面での研修会など、足元からの健康づくりの体系化及び一般化への歩みを思うように進めることができなかった。緊急事態宣言の延長が繰り返され、終息への道筋が未だ見えない状況ではあるが、JASPE足育推進委員会では、今できることは何かを考えながら、Afterコロナを見据えた新たな足育様式の創造を目指し、一步一步、前へ進んでいきたいと考えている。

あり方について

②第4集に向けて

③足育の動画配信などの情報発信について

④足育の体系化について

⑤JASPE足育マイスター制度について

⑥分科会の設定について

二 出前授業・研修会（三回）

杉並区立済美小学校
練馬区立田柄小学校

三 分科会による活動

足育推進委員会内に三つの分科会を設置し、オンラインを基盤に活動

①体系化部会（四回）

②一般化部会（五回）

③情報発信部会（五回）

《令和三年度の取組》

一 足育研究推進園・推進校

令和二、四年度足育研究推進園

・目黒区立げつこうはら子ども園

令和二、四年度足育研究推進校

・杉並区立済美小学校

二 出前授業・研修会・講演

・杉並区立済美小学校

・目黒区立げつこうはら子ども園
・東村山市立化成小学校

三 足育推進委員会足育調査・研究委員会・足育研修会など

オンラインを活用した新たな形での開催・実施

コロナ禍における
新たな足育様式の創造

《新たな足育様式での開催・実施》

一 足育推進委員会

①リモートでの推進委員会の実施

②リモート中心の活動という現状を生かし、他県で活動する教員を推進委員に加入

③養護教諭・幼稚園教員を新たに推進委員に加入

二 三つの分科会を設定

①体系化部会

足元からの健康づくりに向け

足や靴についての体系化に取り組む部会

②一般化部会

マイスター制度の確立、動画配信に向けた準備など、足育をさらに一般化していくために取り組む部会

③情報化部会

保健室からの情報発信、学校や園のさまざまな教育活動における情報発信に取り組む部会

オンラインによる

JASPE足育研修会
滋賀大会の開催

令和三年度のJASPE足育研修会滋賀大会を次のように開催した。

一 滋賀大会の概要

①日時

令和三年八月七日（土）

午前十時から十一時三十分

②開催形式

事前申し込みによるオンライン開催

③内容

JASPE足育の概要

・足育の概要

・出前授業ダイジェスト版

・ギョツと足育
・足指体操

JASPE足育推進委員による講演及び実演

講演

「シューエデュケーション最新情報2021夏」時代に即した教育のヒント」

早稲田大学人間科学学術院招聘研究員学術博士 吉村眞由美先生

視聴終了後オンラインによるアンケート

④参加者概要

滋賀県参加者 四十三名

滋賀県以外の参加者

三十七名

計八十名

《令和二年度の歩み》

一 足育推進委員会（三回）

※リモートでの開催

①Withコロナ時代の足育の

二 オンライン開催について

① 動画収録への取組

- ・ JES本部に動画収録に対応する機材を設置
- ・ 動画収録に向け推進委員の中からクリエイティブチームを設置
- ・ クリエイティブチームがカメラワークを考え、進行台本を作成
- ・ リハーサルでの課題を改善し動画撮影し、映像を編集



クリエイティブチームによる作業風景



リハーサルでの撮影の様子



カメラワークを記入した進行台本と絵コンテ

早稲田大学人間科学術院招聘研究員
吉村 真由美 先生による講演
「シューエデュケーション最新情報2021夏
～時代に即した教育のヒント～」の一場面



小島委員による出前授業のダイジェスト版の実演

丸田委員による
ギョッと足育実演



岩田委員による
足指体操実演



眞砂野委員による
司会進行



富岡委員による
足育概要説明



② オンライン開催の成果と課題

《成果》

- ・ オンラインで開催することで参加しやすいという声が多くあげられていた。
- ・ 複数のカメラで撮影し、カメラワークを工夫したことで、全体と足元など、わかりやすく配信することができた。
- ・ 配信終了後、アンケート画面に切り替わることができ、参加者の感想や意見を集約することができた。

《課題》

- ・ 対面だからこそできる相互交流や意見交換を、オンライン開催の中でどう補完していくことができるか。
- ・ 進行台本やカメラワークなど、よりわかりやすく伝えていく方法を考えていく。

足育推進委員会委員

- ◎ 内木勉…練馬区立光が丘春の風小学校校長・委員長
- ◎ 難波誠二…杉並区立済美小学校校長
- ◎ 眞砂野裕…昭島市立成隣小学校副校長
- ◎ 平武史…台東区立平成小学校副校長

- ◎ 寺内周平…台東区立桜橋中学校副校長

- ◎ 富岡将人…足立区立西新井第二小学校副校長

- ◎ 吉川則久…青梅市立第五小学校主幹教諭

- ◎ 濱田哲…台東区立石浜小学校主幹教諭

- ◎ 前村章太…台東区立根岸小学校主幹教諭

- ◎ 市川洋一…東村山市立八坂小学校主幹教諭

- ◎ 酒井慎一…昭島市立光華小学校主幹教諭

- ◎ 小井土円香…葛飾区立上平井小学校主幹教諭

- ◎ 墨田区立業平小学校主幹養護教諭

- ◎ 小島大樹…調布市立第三小学校指導教諭

- ◎ 岩田純一…墨田区立業平小学校指導教諭

- ◎ 千葉富美江…小平市立学園東小学校指導教諭

- ◎ 武田千恵子…足立区立足立小学校主任教諭

- ◎ 西島秀一…世田谷区立松原小学校主任教諭

- ◎ 古屋知子…八王子市立第五小学校主任教諭

- ◎ 倉前広子…江戸川区立船堀幼

- 稚園主任教諭

- ◎ 梅林伸幸…杉並区立桃井第三小学校主任教諭

- ◎ 丸田樹理…板橋区立高島第六小学校養護教諭

- ◎ 村瀬智美…品川区立源氏前小学校養護教諭

- ◎ 高橋瑞希…足立区立青井小学校養護教諭

- ◎ 小嶋博子…調布市立染地小学校養護教諭

- ◎ 木村恭子…千代田区立麹町幼稚園園長

- ◎ 敷田浩一郎…徳島県阿南市立阿南第一中学校教諭

- ◎ 福田一敏…徳島県美馬市立穴吹中学校教諭

- ◎ 佐瀧昭博…徳島県板野町立板野中学校教諭

- ◎ 神戸翔太…徳島県海陽町立栄喰中学校教諭

- ◎ 吉村眞由美…早稲田大学人間科学術院招聘研究員

- ◎ 福井直美…明治学院大学心理学部教育発達学科特命教授

- ◎ 早川家正…日本教育シューズ協議会理事長

- ◎ 武原充宜…日本教育シューズ協議会理事

- ◎ 早川侍揮…日本教育シューズ協議会理事

- ◎ 早川侍揮…日本教育シューズ協議会理事

- ◎ 早川侍揮…日本教育シューズ協議会理事

- ◎ 早川侍揮…日本教育シューズ協議会理事

- ◎ 早川侍揮…日本教育シューズ協議会理事

- ◎ 早川侍揮…日本教育シューズ協議会理事

- ◎ 早川侍揮…日本教育シューズ協議会理事

体系化分科会

体系化分科会では、主に次の三点から研究および実践を進めてきた。

- 一 足育の根幹を成す「足育の定義」「足育の見方・考え方」「足育全体の体系化」の再構築
- 二 足育研究協力校における調査研究
- 三 足育をさらに一般化していくための「教員の意識調査」

なった。

そこで、本分科会を中心に、足育推進委員会に提案してきた内容は次の通りである。

※以下に示す内容はまだ提案段階であり、今後、実践的な研究推進の中でさらにブラッシュアップしていくものである。

【足育の定義】

足育とは、足に関わる健康教育の総称であって、健康的な生活を実現するための基礎となるものであり、生活文化の中から足と靴に関する正しい知識と実践力を習得し、心身の健康を保持増進できる人間を育てるものである。

【足育の見方・考え方】

足や靴に関する正しい知識を「足元からの健康教育」としてとらえ、生涯に渡って実践していく人間を育てることを意図したものである。

この提案に共通するのは足育が単に知識の習得で完結するものではなく、非認知的な能力の育成も視野に入れた、生涯教育への展望である。私たち足育推進委員会はこの視点を忘れず、生涯に渡って子供たちの健康的

な生活や態度に寄与する足育の可能性を追究していかなければならない。

こうした視点をもとに、生涯に渡る「足元からの健康教育」として足育の内容を体系図として再構築していったとき、見えたきたのは、足と靴の教育をつなぐ『正しい靴の履き方』の重要性であった。

【体系図の改訂】

現在、足育の内容は主に「足そのものの教育」と「靴に関する教育」の2本柱で構成されている。

この2つの内容を低・中・高学年別に振り分け、さらに3つの資質・能力で整理してこれまでの体系図を改訂している最中である。私たちはこの作業の中で、「正しい靴の履き方」に再注目した。

端的に言えば、「靴を正しく履く」から、

- ・自分の正しい靴のサイズが気になる
- ・足と靴のフィット感から足を動かしたくなる（運動意欲が高まる）

・足そのもののへの関心が高まる
(例 土踏まずの役割は?)

・足育の効果を実感するなど、児童の学びに向かう力も無理なく流れていくことが想定できるのである。(イメージ図)

そして、この実現は私たちの目指す「足元からの健康教育」そのものであり、足育を生活文化にしていくな道筋でもある。



現在作成中の体系図は、足育指導資料第4集に掲載予定である。この体系図は、第4集において、先生方の案内板的な役割も予定している。どの学年でどんな内容が載っているのか、この体系図からページをご案内できるレイアウトにしていきたい。

二 足育研究協力校における調査研究について

（杉並区立済美小学校）

教育効果の検証や、児童の足や靴に対する意識の変容を確かめるために、現在、杉並区立済美小学校（難波誠二校長 全児童四百十名）において、長期に渡る調査研究（令和三年度～五年度）を行っている。

足育研究協力校である同校において、現在進行中の調査及び取組は以下の5点である。

- ① 2年生から6年生まで計三百二十二人を対象にした意識調査（質問紙調査）
- ※次ページ参照

- ② 全児童の足長、足幅の計測

- ③ ②の計測結果をもとにした全児童への上履きの貸与

※上履きはJES日本教育シューズ協議会より無償提供

- ④ 全校で取り組む「足育月間」の新規設定。

※この期間の中では、主に次の取組みを実施した。

○四十五分の足育授業

(足育推進委員会が作成した授業案に基づき、一学年前の内容を実施。)

○全学年に足指体操カードを配布。一か月間、家庭で継続実施。

○全校朝会で「ギュッと足育」を活用した校長講話

○芝生校庭での「裸足で遊ぶ月間」

○上履きの履き方および脱ぎ方指導の継続

⑤「反復横跳び」での検証

正しいサイズの靴を正しく履くことが、運動のパフォーマンスにどのような影響を与えるのかを検証するため、反復横跳びにおいて以下の調査を行った。

【調査方法】

・1回目の計測は、特別な指導をせずに実施。

・1回目終了後に、足指体操を実施。正しい履き方の指導を行ってから、2回目の計測を実施。

現在、質問紙や反復横跳びの結果を集計中である。集計したものに統計上の処理をし、考察をしていく。

※児童の意識調査(質問紙)

なお、児童の意識調査(質問紙)については持続効果を検証する。

ため、足育月間の2か月後に同様の調査を実施する予定である。

足指体操のやり方・はき方をあてはまるものにひとつ、をつけてください。

図1 (くつをはきかた)

図2 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図3 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図4 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図5 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図6 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図7 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図8 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図9 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図10 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図11 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図12 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図13 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図14 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図15 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図16 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図17 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図18 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図19 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図20 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図21 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図22 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図23 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図24 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図25 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図26 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図27 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図28 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図29 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図30 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図31 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図32 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図33 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図34 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図35 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図36 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図37 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図38 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図39 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図40 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図41 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図42 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図43 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図44 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図45 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図46 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図47 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図48 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図49 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図50 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図51 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図52 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図53 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図54 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図55 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図56 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図57 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図58 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図59 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図60 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図61 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図62 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図63 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図64 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図65 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図66 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図67 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図68 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図69 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図70 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図71 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図72 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図73 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図74 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図75 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図76 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図77 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図78 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図79 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図80 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図81 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図82 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図83 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図84 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図85 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図86 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図87 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図88 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図89 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図90 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図91 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図92 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図93 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図94 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図95 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図96 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図97 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図98 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図99 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

図100 (はきかた・どのよう足指をいれるか)

足指についてのアンケート

1. 足指体操やスロープをすることは好きですか。

2. 足指体操のやり方は好きですか。

3. 足指体操を毎日行っていますか。

4. 毎日、何時間くらいにしていますか。

5. 毎日、何時くらいにしていますか。

6. 毎日、何時くらいにしていますか。

7. 毎日、何時くらいにしていますか。

8. 毎日、何時くらいにしていますか。

9. 毎日、何時くらいにしていますか。

10. 毎日、何時くらいにしていますか。

11. 毎日、何時くらいにしていますか。

12. 毎日、何時くらいにしていますか。

13. 毎日、何時くらいにしていますか。

14. 毎日、何時くらいにしていますか。

15. 毎日、何時くらいにしていますか。

16. 毎日、何時くらいにしていますか。

17. 毎日、何時くらいにしていますか。

18. 毎日、何時くらいにしていますか。

19. 毎日、何時くらいにしていますか。

20. 毎日、何時くらいにしていますか。

21. 毎日、何時くらいにしていますか。

22. 毎日、何時くらいにしていますか。

23. 毎日、何時くらいにしていますか。

24. 毎日、何時くらいにしていますか。

25. 毎日、何時くらいにしていますか。

26. 毎日、何時くらいにしていますか。

27. 毎日、何時くらいにしていますか。

28. 毎日、何時くらいにしていますか。

29. 毎日、何時くらいにしていますか。

30. 毎日、何時くらいにしていますか。

31. 毎日、何時くらいにしていますか。

32. 毎日、何時くらいにしていますか。

33. 毎日、何時くらいにしていますか。

34. 毎日、何時くらいにしていますか。

35. 毎日、何時くらいにしていますか。

36. 毎日、何時くらいにしていますか。

37. 毎日、何時くらいにしていますか。

38. 毎日、何時くらいにしていますか。

39. 毎日、何時くらいにしていますか。

40. 毎日、何時くらいにしていますか。

41. 毎日、何時くらいにしていますか。

42. 毎日、何時くらいにしていますか。

43. 毎日、何時くらいにしていますか。

44. 毎日、何時くらいにしていますか。

45. 毎日、何時くらいにしていますか。

46. 毎日、何時くらいにしていますか。

47. 毎日、何時くらいにしていますか。

48. 毎日、何時くらいにしていますか。

49. 毎日、何時くらいにしていますか。

50. 毎日、何時くらいにしていますか。

51. 毎日、何時くらいにしていますか。

52. 毎日、何時くらいにしていますか。

53. 毎日、何時くらいにしていますか。

54. 毎日、何時くらいにしていますか。

55. 毎日、何時くらいにしていますか。

56. 毎日、何時くらいにしていますか。

57. 毎日、何時くらいにしていますか。

58. 毎日、何時くらいにしていますか。

59. 毎日、何時くらいにしていますか。

60. 毎日、何時くらいにしていますか。

61. 毎日、何時くらいにしていますか。

62. 毎日、何時くらいにしていますか。

63. 毎日、何時くらいにしていますか。

64. 毎日、何時くらいにしていますか。

65. 毎日、何時くらいにしていますか。

66. 毎日、何時くらいにしていますか。

67. 毎日、何時くらいにしていますか。

68. 毎日、何時くらいにしていますか。

69. 毎日、何時くらいにしていますか。

70. 毎日、何時くらいにしていますか。

71. 毎日、何時くらいにしていますか。

72. 毎日、何時くらいにしていますか。

73. 毎日、何時くらいにしていますか。

74. 毎日、何時くらいにしていますか。

75. 毎日、何時くらいにしていますか。

76. 毎日、何時くらいにしていますか。

77. 毎日、何時くらいにしていますか。

78. 毎日、何時くらいにしていますか。

79. 毎日、何時くらいにしていますか。

80. 毎日、何時くらいにしていますか。

81. 毎日、何時くらいにしていますか。

82. 毎日、何時くらいにしていますか。

83. 毎日、何時くらいにしていますか。

84. 毎日、何時くらいにしていますか。

85. 毎日、何時くらいにしていますか。

86. 毎日、何時くらいにしていますか。

87. 毎日、何時くらいにしていますか。

88. 毎日、何時くらいにしていますか。

89. 毎日、何時くらいにしていますか。

90. 毎日、何時くらいにしていますか。

91. 毎日、何時くらいにしていますか。

92. 毎日、何時くらいにしていますか。

93. 毎日、何時くらいにしていますか。

94. 毎日、何時くらいにしていますか。

95. 毎日、何時くらいにしていますか。

96. 毎日、何時くらいにしていますか。

97. 毎日、何時くらいにしていますか。

98. 毎日、何時くらいにしていますか。

99. 毎日、何時くらいにしていますか。

100. 毎日、何時くらいにしていますか。

三 足育をさらに一般化してい

くための「教員の意識調査」

足育指導資料第4集の内容を精査するため、また、それ以上に足育を学校教育に位置付けるために、推進委員ではない一般の教員の意識調査が必要と考えた。

コロナ禍、ますます多忙化する教育現場で、足育だけを焦点化し教育課程に位置付けるのは無理が生じる。もっと広い視野で多くの教師の意識を探り、学校教育における足育の立ち位置を探りたいと考えた。これは、私たちの主活動の一つである出前授業のブラッシュアップにも寄与する基礎資料になると考える。

そこで、本調査では小学校教師における健康教育や足育の認知度、足育に求めるものなどの一般的な傾向を明らかにするためWEB調査を行った。足育推進委員会が実施した出前授業は東京都が中心となっていることから、東京都の小学校教師を対象にした。

※八月二十六日時点の経過報告として掲載

【調査方法】

・対象は、東京都小学校の教員(管理職・担任・専科・養護教諭・講師)九十二名

・調査期間は、令和三年七月の一か月間。

・回答は、Googleフォームおよび質問紙回収法

・フェイスシート項目は、教職経験年数、役職とした。

・教職経験年数による教師の職歴区分については、木原(二〇〇四)の職歴区分をもとに鈴木(二〇一〇)が再検討した初任期(一年目〜四年目)、中堅期(五年目から十四年目)、ベテラン期(十五年以上)の三段階に設定した。

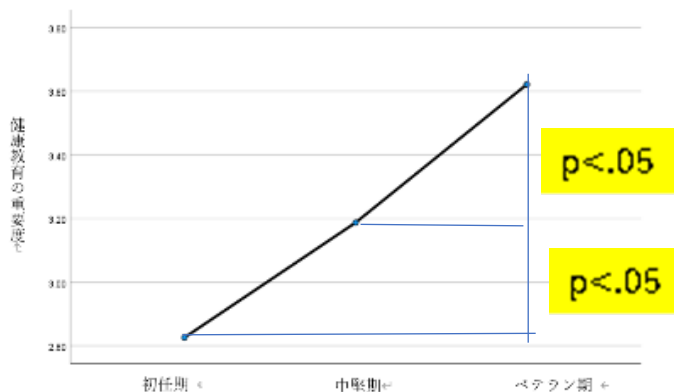
【教員歴】

初任期(一〜四年目) 約26%
中堅期(五〜十四年目) 約31%
ベテラン期(十五年目〜) 約43%

・分析にはIBMSPSS Statistics 27を用いた。

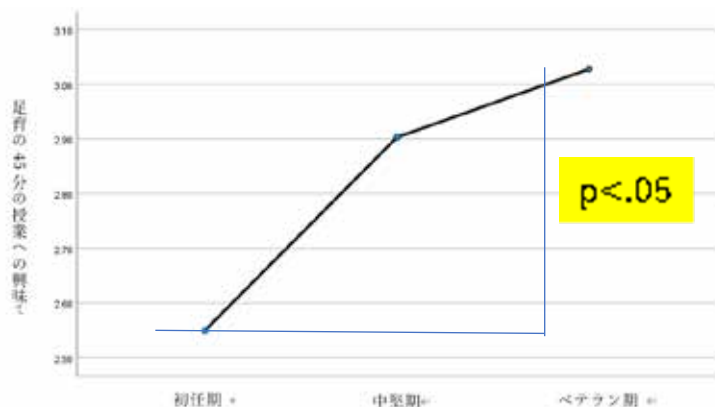
ここでは、「健康教育の重要度」「足育分授業への関心」の二項目について、有意差の出た結果を掲載する。

健康教育の重要度



健康教育の重要度について4件法で回答を求めた。職歴間での一元配置分散分析を行った結果、有意差がみられ、ベテラン期が初任期、中堅期よりも高くなったベテラン期の教員は、初任期、中堅期よりも健康教育を重視していることがわかった。

四十五分授業への関心



足育の四十五分の授業への興味について4件法で回答を求めた。職歴間での一元配置分散分析を行った結果、有意差がみられ、ベテラン期が初任期よりも高くなったベテラン期の教員は、初任期の教員よりも足育の45分の授業への興味が高いことがわかった。

ただし、足育そのものへの関心は職歴による差はなかった。(職歴間での一元配置分散分析を行った結果)

ベテランほど健康教員への意識が高く、足育四十五分授業への関心も高いが、足育そのものへの関心は職歴による差がない。これは、今後の足育普及のヒントとなる。

以下、その他の質問項目および回答をまとめてみる。(紙面の都合により、筆者が一部省略および書き換えた)

Q1 健康教育を重視していますか

重要視している 約44%
どちらかというとき重要視 約44%
あまり重要視しない 約12%
↓コロナ禍の影響もあると思われるが、健康教育への関心は非常に高く、学校教育の根幹であることを再認識する。ただし、健康教育という概念が非常に多くの内容を包括するため、この関心の高さを足育の推進に直結して考えることはできない。

Q2 足育という言葉聞いたことがありますか

ある 約56%
ない 約44%

↓今回のWEB調査では、東京都小学校体育研究会や足育推進委員の所属校に回答を依頼しているため、認知度が高く出ている可能性がある。今後、n(調査対象人数)を広げ、継続的に認知度を掌握していきたい。

Q3 足育に興味がありますか

興味がある 約32%
どちらかというときある 約63%
どちらかというとき興味ない 約5%

Q4 今後、足育を実践したいと思いませんか

実践したい 約21%
どちらかというとき実践したい 約71%
どちらかというときしたくない 約6%

↓Q3からは、足育への関心が非常に高いことが推測される。一方、Q4からは「機会があれば、実践したい」という、教師の本音が感じられる。このギャップをどう実際の取組みに

つなげられるかが大きな課題である。

その課題改善のヒントになり得るのが次のQ5であろう。

Q5 足育のどのような内容に興味がありますか

本項目に肯定的な意見が多かったのは次の内容である。

- ・子供の足のトラブル
- ・短い時間でできる指導
- ・靴の正しい履き方指導
- ・正しい靴の選び方
- ・足育の効果

↓この回答を今後進むべき方向性の一助としたとき、現在の調査研究に足りないのは「足育の効果」である。

『なぜ、足育を行うのか?』

その問いに答えていくために、「子供たちの足にトラブルが多い」という入り口の道標だけでなく、「こういう効果がある」というゴールへの道標を掲げる必要がある。前掲した杉並区立済美小学校での調査研究は、そのエビデンスを得る貴重な機会となると考えている。

一般化部会の取組

JASPE足育を広げるために

一般化部会では、足育の一般化・日常化を目指し、活動に取り組んでいる。

靴の履き方や脱ぎ方を、学校で指導することはこれまでほとんどなかった。「ちゃんと履いて。」程度が実情である。「足育を学校教育に。」を目標に活動に取り組んでいるが、足育をもっと広めるためには、これまで行ってきた出前授業や研修会等の草の根活動だけでは難しい。足育の学習指導ができる先生方を増やすことが大切となる。

そこで、足育マイスター制度を確立し、一人でも多くの実践者を育てることが、今後、足育を推進していくことに有効であると考え。近年、オンラインによる研修も整備され、学校現場にもタブレット端末が配備されつつあることもあり、この機会にどのような制度にすれば、持続可能でより多くの足育実践者を輩出することができるか模索しているところである。現状では、規定が構築されたところ

であり、内容・実施方法などの形態は、現在検討中である。規定の一部を紹介し、今後の展望を示すこととする。

「JASPE足育マイスター」認定制度の設置に関する規定

第1条 本制度設置の目的

本制度は、「JASPE足育」が各学校（園）の教育課程に位置づけられた教育活動として、実生活、実社会で取り組まれるよう、指導・助言できる人材の育成を目的とする。JASPE足育とは、幼児・児童・生徒の足元からの健康教育（体育・健康、安全、環境に関する）である。

足育を実際に子供たちの前で指導する者の育成が、今後、必要であるとの認識から、システムの構築を模索している。第2条には、全国の国公私立を問わず、幼児から高校生までの学齢期を指導する立場の者であれば、JASPE足育マイスターの認定の対象とすることが示されている。

第4条 「JASPE足育マイスター」の認定手続

続き

WEB登録による。登録の方法は、

- (1) JASPE足育3級足育の講演または実践に参加した者。
- (2) JASPE足育2級足育の実践者、実践記録を提出した者。
- (3) JASPE足育1級他の指導者に対して指導できる者。

《JASPE足育3級》

3級は、登録すれば全員になつていただく方向で検討している。これは、入り口は大きく裾野を広げ、より多くの実践者を育てたいという思いがある。

(図1) WEBで登録することによりデータベース化、管理のしやすさ等を考慮している。かなりの人数になつても持続可能な方法と考えている。

《JASPE足育2級》

2級は、それぞれの立場で子供たちにどのように指導したの

か実践の記録を提出していただき、その実態を掴むことができ、実践が広まったことを証明することができる。現状では、足育指導資料の配付とホームページに資料を掲載することで、実践できる環境を整えているが、どの程度実践が広まっているのか、知ることができないので、今後の方針にも影響を与えることになる」と期待している。

《JASPE足育1級》

1級となると、他の教員に指導できる立場となるため、正しい知識や実践力が問われることになる。そのため、数回の講義や演習を受け、簡易計測器やフットプリンターを正しく扱い、考えられることを列挙することが求められるようになることが求められる。そのあたりの要件を整備し、より多くの実践者を育てる立場となつてもらいたい。

今後、制度内容が固まり次第、学体連ホームページでお知らせすることとする。

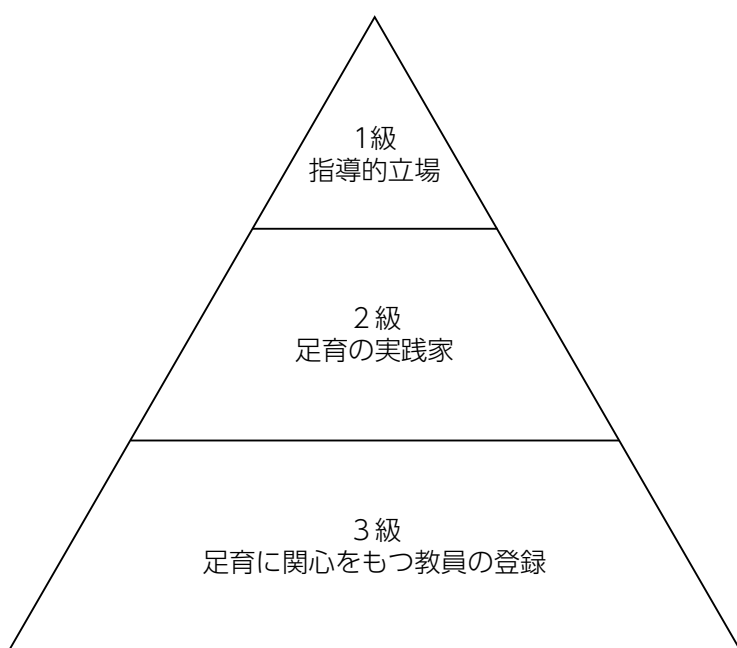


図1 「JASPE足育マイスター」制度のイメージ

足指体操をやってみましょう！

私たちの体をいつも支えているのは「足」です。足が元気なおかげで、私たちは歩いたり、走ったりできます。そして足のアーチ、すなわち土ふまずを育てるには、成長期の十分な足の運動、特に足指の運動が必要です。足指体操を行うことは、土ふまずの成長を促進します。

さあ、みなさん、大切な足をもっと元気にするために、一緒に足指体操をやってみませんか。足指体操の動画は学体連のホームページにも掲載されています。足指体操をすると、足がとてもスッキリするはずです。

まずは座って



靴を脱いで裸足
でやってみよう

足と手で握手

足指の間に手指を入れよう。反対の手の力も借りて、足指を開いて、手指を一本ずつ入れるとやりやすいです。



グルグルとゆっくり回してみよう

足指じゃんけん

まずは足でグー、チョキ、パーを作ってみましょう。慣れるまではゆっくり。慣れてきたらスピードを上げて。



チョキ

グー

パー

「最初はグー」

「じゃんけん〜」
お家の人や友達と勝負をしてみよう。

跪座（きざ）ストレッチ

正座の姿勢からつま先立ちになり重心を後方に傾ける座り方を跪座（きざ）と言います。つま先が伸びて痛くない程度で止めましょう。

次に体を左右にひねってみましょう。気持ちがいところで止めて、つま先をより伸ばしましょう。



つま先立ち



体を左右にひねる

次に立って

ドンドン・ツンツン・トントン
歩き

いろいろな歩き方をやってみましょう。



ドンドン



トントン



いも虫歩き

立った状態からつま先を動かして少しずつ前に進んでみましょう。いも虫みたいに「モグモグ」と。今度はお家の人や友達ともぐもぐ勝負。床に置いたタオルを両側からモグモグと引っ張り合ってみましょう。



♪歌って足指体操♪

最後に歌を歌いながら足指体操をしてみましょう。

※「幸せなら手をたたこう」の替え歌

幸せなら手をたたこう（パンパン）
幸せなら手をたたこう（パンパン）
幸せなら態度で示そうよ
ほらみんなて手をたたこう
幸せなら足ならそう（ドンドン）
幸せなら足ならそう（ドンドン）
幸せなら足ならそう（ドンドン）
幸せなら態度で示そうよ
ほらみんなて足ならそう
幸せならつま先で（ツンツン）
幸せならつま先で（ツンツン）
幸せならつま先で（ツンツン）
幸せなら態度で示そうよ
ほらみんなてつま先で
幸せならかかとで（トントン）
幸せならかかとで（トントン）
幸せならかかとで（トントン）
幸せなら態度で示そうよ
ほらみんなてかかとで
幸せならいも虫で（モグモグ）
幸せならいも虫で（モグモグ）
幸せならいも虫で（モグモグ）
幸せなら態度で示そうよ
ほらみんなていも虫で
幸せなら最初から（パンパン・ドンドン・ツンツン・トントン・モグモグ）
幸せなら最初から（パンパン・ドンドン・ツンツン・トントン・モグモグ）
幸せなら最初から（パンパン・ドンドン・ツンツン・トントン・モグモグ）
ほらみんなて最初から

情報発信部会の取組

足育情報発信部会は、「足育を保健室から広めよう」を合言葉に、養護教諭の先生方がすぐに使える資料を作成し、発信しています。作成している資料は、「保健だより」「揭示資料」「雑誌等への原稿掲載」の主に三つです。メンバーは、小学校養護

教諭、小学校教諭、幼稚園教諭で構成されています。幼小の実態の共有や、取組の情報交換などしながら、何が必要とされているのか、何を伝えたいのかを話し合い、資料の作成をしています。「保健だより」と「揭示資料」については、すぐに活用してもらえようように、足育推進事業のホームページに掲載しています。



〈足育の内容を取り入れた保健だより〉



〈新学期に合わせた内容〉

「保健だより」の作成

子どもたちや保護者に、足や靴のことを考えてもらう機会には、年度の節目や行事など、たくさんあります。そこで養護教諭の発行する「保健だより」から家庭や地域に向けて「足育」の情報発信ができるよう、季節や行事に合わせた「足育」の記事を作成しています。

例えば、年度末・年度初めは、上履きなどの買い替えの時期です。そこで、足のサイズは1年でどのくらい大きくなり、どのようにサイズを選ぶとよいのか、

足の大きさに合ったサイズの靴を履くよさを紹介する内容の記事を載せています。

体力テストや運動会前は、自分の足の大きさに合った靴を正しく履くと、思い切り体を動かせるよさを紹介しています。

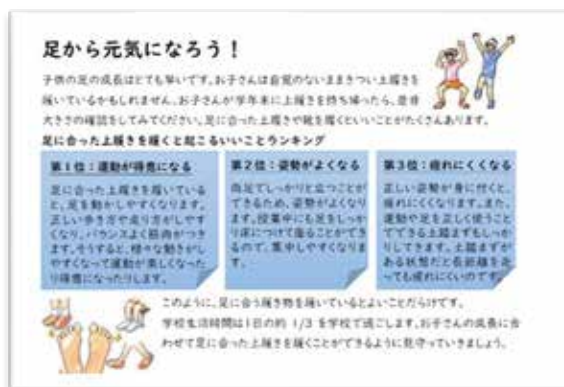
これらの内容は、保護者だけでなく児童にも読めるように、分かりやすい言葉で図やイラストを交えて表現しています。

小学校だけでなく、幼稚園の保健だよりも紹介しています。

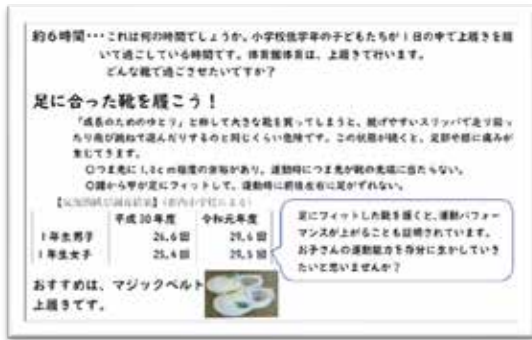


〈幼稚園のほけんだより〉

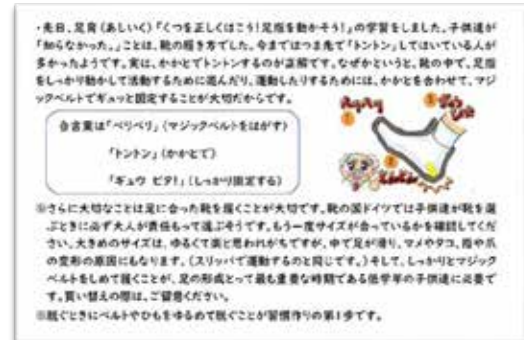
保護者向けに、足の清潔や爪の切り方の記事を載せています。これからも、月ごとの保健だよりに加え、様々な視点から「足



〈行事に合わせた内容（体力テスト）〉



〈就学時検診や新入生保護者会などの資料として〉



〈保護者や子どもたちの興味・関心を高める内容〉

育」を身近に感じられるような記事を掲載していきます。子どもたちの体や健康のことに何より関心をもっている養護教諭の先生方から足育が広がり、子どもたちや保護者の意識を高めていくことにつながればと思っています。

今後は、保健だけでなく、就学時検診や保護者会の資料も作成していく予定です。保護者会資料は、保護者に向けて担任の先生がその資料を基に説明します。担任の先生も保護者も養護教諭も、みんなで子どもたちの足育について考える、資料作りを目指しています。

二「掲示資料」の作成

学校生活の中で、子どもたちに「気を付けてほしいこと」「知ってほしいこと」などの足育に関する掲示資料を作成しています。

例えば、昇降口で靴を履くときに見える場所に、「正しい靴の履き方」「はきものをそろえよう」などの資料を掲示します。



〈幼稚園の取組の紹介〉



〈靴箱の周辺に掲示〉

つま先ではなく、かかとをトンとして履くことや整頓された靴箱の気持ちよさに気付くことができます。

上記の写真のような幼稚園の取組も紹介しています。文字や言葉ではなく、写真や図などを効果的に使い、子どもたちが正しく靴をしまったり履いたりできるように工夫されています。

また、保健室前には、足指ジャンケン・足指体操、足育コラムなどを掲示します。保健室を通りかかったときや、検診のちよつとした待ち時間など、子どもたちが足や靴について、興味をもったり、思い出したりできる姿を目指しています。これからも楽しく見て学ぶ掲示物を追加作成していきます。

三 雑誌等への原稿の掲載による「足育」の情報発信

足育という教育活動を広く知ってもらうために、雑誌等に原稿を掲載する活動を行っています。

養護教諭向けの月刊誌「健康教室」には、「As a First Step」足が変れば子どもが変わる! 子どもが変われば未来が変わる!」と題し、足育の概要と子どもたちの足の現状、具体的な実践事例として「ギョツと足育」の指導資料や「足指体操」を掲載しました。

多くの養護教諭や学校関係者の方に「足育」のことを知ってもらえるよう、これからも、積極的に情報発信をしていく機会を増やしていきたいと思っています。

以上が「足育情報発信部会」の取組です。

「足育」を日常化・生活化・一般化していくために、学校教育の中でも、特に養護教諭の先生方に広く知ってもらい、活用してもらうことが大きなねらいです。さらに養護教諭の先生方を窓口として、その先にある、学校全体、家庭、地域とつながりを意識し、多方面から子どもたちに「足育」を根付かせる手助けとなれるよう、今後も活動を続けていきたいと思っています。

本園は令和2年度より、公益財団法人日本学校体育研究連合会の指定を受け、足元からの健康教育に取り組んでいる。

◆推進園としての取組

《研究主題》

『心も体もたくましい幼児を育てる』幼児の「やってみよう」という気持ちを引き出すために」

《研究の方法》

一 基礎研究

- ・幼稚園教育要領や解説等の文献及び本園の実態から「心も体もたくましい幼児」の具体的な姿について検討する。
- ・足育に関する先行研究や、日本教育シュエーズ協議会早川家正氏の講話や明治学院大学心理学部教育発達学科特命教授福井直美先生の講話動画から学ぶ。
- ・コオーディネーションについて学ぶ。

二 事例研究

- ・幼児が遊びや生活に取り組んでいる姿や、幼児の「やってみよう」という気持ちが現れる場面から、その要因を考察する。

れた場面から、その要因を考察する。

- ・教師が幼児の「やってみよう」という気持ちを引き出すために必要な援助や環境について考察する。

三 実践及び検証

- ・幼児の「やってみよう」という気持ちを引き出すための教師の援助や環境について実践及び検証をする。
- ・幼児の健やかな体作りのために、正しい靴の履き方を身に付け、楽しい運動遊びを取り入れる。
- ・実践の積み重ねによる幼児の変容を捉える。

《研究の取組》

一 育てたい幼児の姿について

「心も体もたくましい幼児」の具体的な姿を明確にし共通理解を図った。

- ◎幼児の発達において心と体を十分に働かせることの必要性和その双方へのアプローチが必要。



二 貸与靴について

幼児が正しく靴を履くことは、靴を履いた後の行動へつながることから、幼児の「やってみよう」という気持ちにも関わると考え、次の取組を行った。

楽しく定着させる方法を検討した。

- ①「トントントン、入っているか」(靴を履き、踵をトントン)
- ②「ドアを閉めて」(靴のタンをしっかり入れる)
- ③「鍵をしっかりかける」(両手でマジックテープを引っ張り、留める)

◎靴を次に履く際に履きやすいよう、マジックテープを開いた状態で置ける靴箱の配置の変更や、上履き外履きを並べて置ける靴型のシートの作成、腰を上げて靴を履くことが難しい幼児用に腰かけ台の配置など、環境を整備。

◎貸与靴に対して、幼児が興味関心や特別感を抱くことで、正しい履き方への意識が高まると考え、教師が「足博士」に扮するなど工夫した。幼児は「足博士にサイズを測ってもらおう」と実際に靴が届くことを待ち望む姿が見られた。

◎令和2年度末、新年度へ向けて貸与靴の試し履きの際には「足博士から靴が届いた」と設定し、遊戯室に靴を並べて布で隠し幼児のワクワク感を演出した。幼児たちは新しい靴との出会いを喜び、靴の履き方を教わって正しく履いた瞬間、飛び跳ねたり、早く走れる気がする」と走ってみたい自然と動き出す姿が見られた。

姿が見られた。

◎心と体の双方への丁寧な援助の有効性が分かった。しかし、次第に靴の履き方が疎かになる幼児がいるため、教師が定期的に「足博士」の設定を生かし、手紙を書かせたり、自身が扮して指導を行ったりするなど定着に努めている。

三 体を動かす遊びについて

心と体の双方へのアプローチを行う上で、基本となる体づくりにつながる活動を積極的かつ確実に取り入れ、積み重ねていく必要性があると考えた。

◎いろいろな体の動きを取り入れた運動遊びの機会を1日1回取り入れる。その際には、イメージの世界でなりきって取り組める援助を工夫する、また、幼児が主体的に考えたり、取り組んだりできるような場面を大切にす。

◎裸足になり、足指を使う遊び(足指じゃんけん、おしりと足指を使って動く、足指でタオルをつまむ)



など)を1日1回取り入れる。その際には、基本的な動きを教師が示しながらも、幼児が動き方や動きのイメージ等を考えられるよう援助する。

《今後の課題》

◎心と体を十分に働かせ、心身の調和のとれた発達の基礎を培うためには、基本となる健康な体作りが欠かせない。1学期には5歳児の運動能力テストを行った。また、今後はフットプリントを取り、幼児一人ひとりの足の特徴を知る予定である。正しい靴の履き方や、運動遊び、足指を使った遊びを継続的に取り入れることにより運動能力向上や健康な足、土踏まずの形成などの変容をデータとして見ていきたい。また、それらの運動機能面と幼児の意欲面の関連性について調べたいと考えている。

◎保護者へは、貸与靴の指導の状況や、正しく靴を履くこと、歩くことの大切さなどについて、手紙や保護者会などで知らせてきた。しかし、足育の大切さについての周知が十分ではない。2学期以降、幼児の今までの取組を継続するとともに積極的に発信に取り組み、講師による講演の機会をもつなど、家庭との連携を図る必要があると考えている。

本校は令和2年度より、公益財団法人日本学校体育研究連合会の指定を受け、足元からの健康教育に取り組んでいる。

一 推進校としての取組

①教員への足育研修会の実施

教員の足育に関する理解を深めるために、令和2年8月に日本教育シューズ協議会理事長早川家正氏と足育推進委員長現練馬区立光が丘春の風小学校長内木勉先生を招き、教員対象の足育に関する研修会を実施した。研究会では、児童の足の実態やその課題から、足育の必要性について学ぶとともに、教員自身の足を計測することを通して、足のサイズに合った靴を正しく履くことの大切さを実感することができた。また、今までの推進校の取組から各教員が今後の取組の見通しをもつことができた。

②保護者への足育の啓発

足育を推進していくためには、家庭の協力を得ることが大切である。令和2年9月には、前出早川家正氏による保護者対象の講演会を実施した。コロナ禍のため、PTA役員のみを対象と

して実施し、発育期の足育の大切さへの理解を啓発することができた。また、令和3年1月から保護者へ向けて「せいび足育だより」を定期的に発行している。子供の足と靴の実態や課題、全児童への上履き貸与の周知、各学年の足育授業の内容等を伝えることで、保護者の足の健康への関心を高めている。

③全児童への上履き貸与と正しい靴の履き方の指導

全児童を対象に簡易足計測器を使って足長及び足幅を計測し、自分の足に合った上履きを令和3年4月から全児童へ貸与している。また、年度当初の全校朝会にて、正しい靴の履き方及びその必要性を理解させ、継続的に各学級にて指導している。靴の履き方の合言葉である「ベリベリ・トントン・ギューピタ」により、靴のつま先側に足指が十分動かせるゆとりをつくることの大切さを理解させ実践させている。

④足育月間の設定と取組

・各学年の足育授業の実施

本校では、足育月間を6月と1月の年間2回設定している。足育月間には、学級活動の時間を使い、足育指導資料を活用した足育授業を各学年で実施する。足の健康について理解させ、自らの健康づくりを実践する力を身に付けさせるために、



1・2年は「正しい靴の履き方や脱ぎ方」3・4年は「土ふまずの大切さ」5・6年は「自分の足に合った靴の選び方」を学ばせる。本校では、今年度から足育授業を始めたため、内容を系統的に学べるように、6月に一学年下の授業内容を実施し、1月に当該学年の授業内容を実施することとした。また、全ての学級が同じ期間に授業を実施することで、各担任が互いの授業を見合い、情報を共有できるようにした。

・全校朝会での「ギューッと足育」の活用

足育月間内の全校朝会では、指導資料の「ギューッと足育」を活用した校長講話を実施した。オンライン朝会のため、足育推進委員会作成のプレゼン資料を効果的に使用することができ、児童の足への関心を高めることができた。また、正しい靴の履

き方もその都度指導し、児童の足育への意識の向上を図った。

・足指体操の継続的な実施

土ふまずの成長を促す「足指体操」を児童に継続的に取り組ませるため、全校朝会での実演と共に足指体操カードを配布し、6月からの1カ月半、各家庭で自主的に取り組ませた。足育授業に合わせて取り組ませることで、足指体操の必要性を理解させ、実践意欲の向上を図った。



・「はだしで遊ぼう月間」の設定

本校の特色である全面芝生校庭を活用し毎年「はだしで遊ぼう月間」を6月に設定している。休み時間に裸足で遊ぶことで、児童は芝生の感触を楽しみながら、いつも以上に活発に走り回る姿が見られる。裸足で遊ぶことは、足指を十分に動かすこと

や足裏への刺激を与えることにつながり、歩行やバランスに欠かせない土ふまずの形成に役立つと考える。

二 児童への質問紙調査の結果

6月の足育月間後に足育調査研究委員会作成の「足についてのアンケート」を2学年以上で実施し、児童の実態を把握した。「履き方を気を付けているか」の質問では、肯定的な回答が全校児童の57%であった。しかし、学年別での割合は学年が上がるにつれ、少なくなる意向がみられた。気を付けている理由としては、「自分で考えて」が41%、「先生に言われて」が40%であった。靴の履き方についての質問では、「ベルトを緩めてから履く」は92%、「踵に寄せて履く」は72%、「ベルトで足を固定する」は70%の児童が意識できていることが分かった。「ベリベリ・トントン・ギューピタ」は正しい履き方の合言葉として浸透しつつあるものの、まだ、つま先での「トントン」等その意味を間違えて理解している児童もいることが分かった。教員からの声掛けにより正しい履き方を指導するだけでなく、足育授業を通して、正しく履く必要性を理解させ、自らの意思で実践できる態度を育てていく必要がある。

一 はじめに

本園は、平成三十年度・令和元年度に、公益財団法人日本学校体育研究連合会より、JASPE 足育推進事業の推進園の指定を受け、実践報告会を行いました。令和二年度からは、足育調査研究協力園として、それまでの研究成果を生かして足元からの健康を促すとともに、課題の解決に向けた足育研究と日々の実践を継続しています。

二 今年度の取組

【合言葉】

二年間の研究の中で、教師や幼児の間で「ベリベリ、トントん、ギュー、ピタ!」という合言葉を決めました。この合言葉は、幼児が正しく靴を履けるようにするためのものです。リズムミカルな語感、幼児にとって覚えやすく、丁寧に靴を脱ぎ履きしようとする姿につながっていききました。

令和二年度以降も、この合言葉を継続して使っています。また、幼児が正しい靴の履き方を

身に付けられるよう、合言葉を図示した表示も掲示しています。上履きの貸与が始まったばかりの年中児だけでなく、靴の脱ぎ履きに慣れた年長児も折に触れて絵表示を見直し、靴の正しい脱ぎ履きの仕方を再確認する姿が見られています。



廊下に掲示している絵表示

【継続的な正しい履き方の指導】

研究の一環として、JES日本教育シューズ協議会の協力のもと、平成三十年九月から上履き、令和元年度から外靴の貸与をしてもらっています。貸与が始まったばかりの幼児は、まだ正しい靴の履き方が身に付いておらず、マジックベルトの装着が不十分だったり手を使わずに靴を履こうとしたりする姿が見られていました。そこで、年度始めに靴の履き方の再指導を行

いました。「ベリベリ、トントん、ギュー、ピタ!」の合言葉とともに、人形を用いて、正しい靴の履き方を幼児と一緒に確認していきしました。靴の履き方を再度知らせると、子どもたちも一緒に合言葉をつぶやきながら靴を履く姿が見られました。全体に改めて指導してからは、生活の中で子どもたち自身が正しい靴の履き方を意識するようになりました。こうした幼児の姿から、継続的に正しい靴の履き方を知らせていくことの大切さを改めて認識しました。



人形を用いた靴の履き方の指導

【ホームページの充実】

研究を通して、合言葉や靴の貸与など、様々な成果を得られました。一方で、保護者に対する足や靴に関する正しい知識の発信が課題となっていました。これまでも、講演会を行ったり

配布物を準備したりして、幼児期に靴が足に合う感覚を身に付けることの大切さを発信してきましたが、保護者自身の十分な実感にはつながっていませんでした。そこで、園のホームページに「青南足育研究所」と題したページを作成しました。このページでは、日本学校体育研究連合会のホームページのリンクを貼り、足育のパンフレットや足育実践報告会で作成したリーフレットなどの資料を見られるようにしたり、青南幼稚園の足育研究の取り組みについて紹介したりしています。今後も、足育に関する情報を定期的に発信し、保護者の理解を深めていきたいと考えています。



青南幼稚園のホームページ
(青南足育研究所のページ)

【正しいサイズの計測】

前述したように、靴が足にフィットする感覚を子どもたち

自身が身に付けることは、とても大切なことです。そのためには、定期的に正確な足のサイズを計測し、一人一人の足に合った靴を履くことが必要だと考えています。本園では、簡易計測器を用いて、子どもたち一人一人の足のサイズを計測しています。



園で使用している簡易計測器

三 おわりに

青南幼稚園の足育研究は、令和三年度で四年目となります。JES日本教育シューズ協議会から貸与してもらっている上履きや外靴は、子どもたちにとって慣れ親しんだものとなりました。四年目となった今だからこそ、教師自身が足元からの健康について改めて考え、子どもたちの健全な成長につなげていきたいと思っています。

令和2年度 個人賛助会員

個人賛助会員 (10,000 円)

北海道	土橋 史人
	倉 博之
青森県	菅原文子
岩手県	石川 雅一
	田村 忠
	荒木田 光孝
宮城県	三井 裕
秋田県	千葉 学
	柴田 浩義
福島県	福士 久子
茨城県	飯田 研一
	鈴木 拓夫
	白土 良子
埼玉県	保高 智
	牧田 卓司
	品川 秀人
千葉県	向後 依明
東京都	池上 育志
	岩井 純一郎
	本田 幸彦
	加藤 隆司
	竹内 彰泰

神奈川県	小宮 寛之
富山県	幸塚 孝行
福井県	井上 美智代
	平井 喜浩
岐阜県	澤田 勝之
静岡県	佐藤 晋也
	土屋 行広
山梨県	渡邊 昭男
	松坂 浩一
愛知県	織田 健
	林 徳孝
滋賀県	安田 寛次
	岸本 英幸
大阪府	野田 健司
兵庫県	中井 正人
	澤嶋 伸
	島田 育生
鳥取県	竹安 修
	寺澤 ゆかり
島根県	児島 史朗
広島県	島本 靖
	新山 欣二

徳島県	高瀬 淳
香川県	濱田 正人
愛媛県	松本 賢司
	松本 一考
福岡県	曾根 徹
佐賀県	下平 博明
熊本県	杉本 三郎
鹿児島県	玉泉 眞二

児島株式会社
JES 日本教育シューズ協議会
株式会社学研教育みらい
株式会社大修館書店
フットマーク株式会社
株式会社ギムニク
株式会社ミカサ
教育シューズ振興会
学校体育シューズ研究会（株式会社アスティコ・協和株式会社）
株式会社第一学習社
日進ゴム株式会社
株式会社光文書院
大日本図書株式会社
東京書籍株式会社
セノー株式会社
廣済堂あかつき株式会社
株式会社三和製作所
ブランロッシュ株式会社
株式会社こども体育研究所
ミズノ株式会社
株式会社GRIP
東商アソシエート株式会社
株式会社正進社
株式会社エバニュー
プラス株式会社ジョイントテックスカンパニー
株式会社東洋館出版社

本財団事業は「公益信託日本教育シューズ学校体育振興基金」から
助成を受けております

Ball
exercise

Balance

Let's
Challenge

Enjoy

Every day

Fun

誰でも簡単! 楽しい!

ボールに挑戦 してみよう

ボールが届いたその日から、動き豊かなライフスタイルは
始まります!

まずはボールに、ゆっくり座ってみてください。
フワフワとした感触が楽しくて、ピョンピョンと弾んでしまう
かもしれません。

ボールに座った人は、じっとしていることが許されないのです。
でもそれは、苦しいトレーニングをしているという感覚では
ありません。

「気がついたらカラダをたのしく動かしていた」

実はそこそがボールエクササイズ最大の魅力です。

Let's
Challenge
Ball
exercise



CE規格

CE規格は、EU加盟国の安全基準を満たすものに付けられるマークです。



gymnic.
THE WAY TO MOVE

GYMNIC BALANCE.

株式会社ギムニク
<http://gymnic.co.jp>



公益財団法人 日本学校体育研究連合会 優良体育用品

Mikasa



重量約280g

小学生全級 ネーム可

SF428-WBK 本体価格 ¥2,500+消費税

【スマイルサッカー4号】



重量約260g

小学校低学年級 ネーム可

SF326-WBK 本体価格 ¥2,400+消費税

【スマイルサッカー3号】



重量約260g

ネーム可

SFLL3-Y/P 本体価格 ¥3,000+消費税

【スマイルフットサル3号】



SFLL3-Y

SFLL3-P

空気を入れない
フットサル



重量約300g

FLL300-WBY 本体価格 ¥2,000+消費税

【ソフトタイプフットサル】

空気を入れない
ハンドボール



小学校低学年級

HBO 本体価格 ¥2,000+消費税

【ハンドボール0号】



FF-YBL 本体価格 ¥1,500+消費税

【フラッグフットボール】



FFF-BL (1セット)



FFF-Y (1セット)

FFF-Y/BL 本体価格 ¥1,200+消費税

【フラッグフットボール用フラッグ 1セット】



重量約430g

ネーム可

SB612-OBL 本体価格 ¥3,000+消費税

【スマイルバスケット6号】

セストボール



SC-YPLG 本体価格 ¥2,200+消費税

【セストボール】

ブレルボール



重量約210g

ネーム可

SP-OYLG 本体価格 ¥2,400+消費税

【ブレルボール】

空気の入れ過ぎにご注意ください。最適圧力はボール本体の空気注入口に記載の圧力表示、もしくはサイズ表示をご参照ください。

NONSLIP SERIES



公益財団法人 日本学校体育研究連合会 優良体育用品

ノンワックス・
水分不使用

安全性

学校環境衛生基準・
食品衛生法基準をクリア

下処理なしで塗布可能

簡単

バスケット2面
(当社施工)を
1時間以内に塗布可能

ワックス成分不使用の体育館専用メンテナンス剤



メンテナンスクリーナー
¥48,000(税別)



ノンスリップ
¥58,000(税別)



ノンスリップハイパー
¥82,000(税別)

驚異のグリップ力回復

高性能

ウレタン樹脂塗装と同等
滑り抵抗係数
+0.3以上回復 ※

コストは1/10以下

低コスト

ウレタン樹脂塗装に
かかる費用(当社比)

※NONSLIPが該当

ますます拡大中!



<導入施設一覧>

サンプルのご希望、ご不明な点などお気軽にお電話ください。

GRIP

株式会社GRIP

本社) 鹿児島市与次郎 1-5-30

支店) 東京都港区浜松町2-10-11

TEL.099-297-5455

TEL.03-6820-0820

日本の室内スポーツの底上げは「床」から。

Blanc Roche



【取引先】

都内を中心に100校以上の幼稚園・小・中・高・大学

《体操着・水着・上履き・通学帽・体育教材・備品・部活用品》
ゴール・ネット・マット・支柱・ハードル・プールフロア・ラインカー
ネーム加工 ユニフォーム・シャツ・ジャージ・バッグ・ボール

フルオーダーメイド ウェア・シューズ

【取扱いメーカー】

アシックス・ミズノ・アディダス・ナイキ・プーマ・ノースフェイス・チャンピオン・アスレタ・コンバース・デサント・D&M・ゼット・エスエス
ケイ・ウィルソン・ハイゴールド・アンプロ・シュアプレー・ヒュンメル・ルコック・ディアドラ・ペナルティ・モルテン・セイコー・ゴーセン・
ニューバランス・ヨネックス・ナガセケンコー・エバニュー・トーエイライト・ミカサ・鐘屋産業・奏運動器具工業・仲條・成美堂スポーツ出版・
ダイケントップ・ニチバン・KT・ルーセント・ヤサカ・ヤマト卓球・日本卓球・タマス・九桜・早川繊維 他多数

ブランロッシュ株式会社

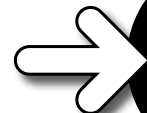
東京本社 〒176-0006 東京都練馬区栄町32-15 TEL: 03(3994)1055 FAX: 03(3994)1079
埼玉営業所 〒359-0026 埼玉県所沢市牛沼431-4 TEL: 04(2001)6421 FAX: 04(2001)2323

ブランロッシュ公式ホームページ <http://www.blanc-roche.com/>
ブランロッシュヤフー店 <http://store.shopping.yahoo.co.jp/blanc-roche/>
お問い合わせ メールアドレス school@blanc-roche.com

祝 第60回全国学校体育研究大会 愛媛大会

映像データベースは「深い学び」を支えます。

映像データベース



体験
してみよう!

<https://www.tokyo-shoseki.co.jp/ict/taiken/>



たくさん

小・中学校 各10教科
約6,000コンテンツ

小学校、中学校各10教科をラインアップしました。教科書の学習内容に即したショートクリップを多く収録しているので、ふだんの授業ですぐにお使いいただけます。



かんたん

直観的な操作で
てがるに使える

教科書の単元や分野を絞り込んで目的のコンテンツを選択するだけ。プレイリストの作成や、QRコードの出力を使ったこだわりの使い方でもできます。



ひろがる

さまざまな学習シーンで
カリキュラムマネジメント

一斉視聴やグループ学習、個別学習など、活用場面はさまざま。アウトプットしたURLやQRコードは、いろいろな使い方ができます。

小学校 **体育** 780
コンテンツ
中学校 **保健体育** 290
コンテンツ

いろいろな角度からとらえた映像が、運動の流れや体全身の動きの細かいようすまではっきりと映し出します。体づくり運動、器械運動、水泳、ゲーム、ボール運動などを基礎から、丁寧に扱います。

Web配信 (学校内フリーライセンス)
[1年] 各55,000円 (本体50,000円)
[5年] 各220,000円 (本体200,000円)

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



東京書籍 教育事業本部 営業部 (東京) 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 Tel:03-5390-7577 Fax:03-5390-7582
(大阪) 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-4-10 Tel:06-6397-1351 Fax:06-6397-1357
ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp> 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

スクールシューズのプレミアムスタンダード

教育シューズ
PK-X3



極める

グリップ性

耐久性

超軽量

サイズ…21.0cm～28.0cm 29.0cm 30.0cm 31.0cm アッパー…ポリエステル/人工合皮
ソール…合成ゴム/合成樹脂

(公財) 日本学校体育研究連合会賛助会員
教育シューズ振興会
TEL(086)243-2218 FAX(086)243-2253
(製造部) 日進ゴム株式会社 TEL(086)243-2467
<http://www.nisshinrubber.co.jp>
e-mail:kyouiku-shoes@nisshinrubber.co.jp

1人1台端末時代に求められる「10X授業」を板書シリーズの実践をもとに提案!

「10X 授業」を
"最短最速"で
実現するために

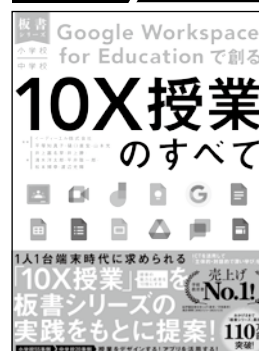


1人1台端末時代に求められる
授業をデザインできる!

小学校 中学校 Google Workspace for Educationで創る
10X授業のすべて

本書では、1人1台端末時代に求められる授業デザインの在り方を、Google Workspace for Education の各種アプリを活用して解説しました。現場からの智慧を集結して、本当に明日からすぐにでも授業でご活用いただけるよう考案したのが、「Google Workspace for Education 活用 10の型」と「Google ティーチャーズ・マップ (GTM)」です。「10X 授業 10の型」とは授業における ICT 活用のコツをいち早くつかめるように、「場面 (目的)」「活用メリット」を組み合わせたパターンを、できる限りシンプルに解説したものです。この「型 (パターン)」を理解することで、先生方ご自身で ICT の特性を生かした授業をデザインできるようになります。

小学校55事例 中学校20事例



判型: B5 変形 / 440 頁
税込価格 3080 円



世界最高の器具をつくれ。

夢の舞台に挑む

アスリートたちの躍動を、最大限に引き出すために。

セノーは100年を超える歴史で培ってきた
あらゆる技術と経験を結集。

最高峰の品質を求めた

スポーツ器具でサポートしています。

すべてのアスリートたちと同じように、

セノーもさらなる高みをめざして。

最高のプレーをささえる器具にも
ぜひご注目ください。



Volleyball



排



馬



Gymnastics



Basketball



籠

セノー株式会社

〒270-2214 千葉県松戸市松飛台250 Tel:047-311-8912 <https://www.senoh.jp>



足の成長を一番に考えた「教育シューズ」

教育シューズ®
A イスMV3



安全で快適な
ポイント

- 1 通気性
- 2 安定性
- 3 クッション性
- 4 快適性

教育シューズ®
プレミアム誕生!

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員

教育シューズ振興会

TEL(086)243-2218 FAX(086)243-2253

(製造部) 日進ゴム株式会社 TEL(086)243-2467

<http://www.nisshinrubber.co.jp>

E-mail:kyouiku-shoes@nisshinrubber.co.jp

【新体力テスト集計・分析システム】

(文部科学省発表新体力テスト準拠)

体力づくりをめざして

- 個人票はカット済み
- 部活顧問用資料を充実
- 測定実施の完全バックアップ

集計・分析処理料金(1人分)

240円(税込)

以下の資料をお届けします

- 学校総括表
- 順位一覧表・級門分布表
- 判定別一覧表
- 生徒指導カード(個人カード控え)
- クラス台帳
- 生徒指導台帳
- 部活分析表
- 運動部活別比較表
- 部活台帳
- 学校集計資料・保健部資料
- ★教育委員会提出資料を完備

TEL 082-234-6806 FAX 082-503-3084 〒733-8521 広島市西区横川新町7-14

●大阪支社 / ☎06-6380-1391
●新潟営業所 / ☎025-290-6077
●横浜営業所 / ☎045-953-6191
●福岡営業所 / ☎092-771-1651

●札幌営業所 / ☎011-811-1848
●つくば営業所 / ☎029-853-1080
●名古屋営業所 / ☎052-769-1339
●金沢出張所 / ☎076-291-5775

●仙台営業所 / ☎022-271-5313
●東京営業所 / ☎03-5803-2131
●神戸営業所 / ☎078-937-0255
●沖縄出張所 / ☎098-896-0085



みつめたい教育と未来

第一学習社



創刊号 2021年4月
を発売しました!

NEW

smartschool[®]
for TEACHERS

smartschool for TEACHERS は、スマートスクールが作った
先生のための教材カタログです。

掲載商品はこちら
ぜひご覧ください!



ココが
POINT!



体育用品も翌日[※]にお届け!

※一部商品・
地域を除く

忙しい先生を、1年を通してサポートします! カatalogをご希望の際は担当販売店まで。



▶今すぐスマートスクールWebにアクセス!

<https://www.smartschool.jp> 検索



▶スマートスクールお問い合わせセンター

TEL:0120-598-721

午前9時~午後6時
(日・祝祭日を除く)

児童・生徒にはわかりやすく、先生には扱いやすい準教科書



たのしい体育

新内容「投の運動」「ハンド
テニス」を取り入れました。
器械運動・陸上運動では技の
ポイント動画とリンクします。

B5判／オールカラー／56～88頁 ■ 教師用指導書付き
定価：各学年 540円（本体 491円＋税）

アクティブ 中学校体育実技



実際の動きで学べる
ウェブ動画つき！



B5判／オールカラー／352頁 ■ 教師用指導書付き
定価：850円（本体 773円＋税）



新しい体育の授業づくり

李子耕一（中京大学教授） 家田重晴（中京大学教授） 勝亦紘一（中京大学名誉教授） 編著

学習指導要領の「アクティブ・ラーニング」の考え方、
日々進歩する最新のスポーツ科学の知見などを踏まえて改訂！

ISBN 978-4-477-03351-8 ■ B5判／208頁 ■ 定価：2,200円（本体 2,000円＋税）

 **大日本図書**
<https://www.dainippon-tosho.co.jp>

本社 東京都文京区大塚3-11-6
支社 東日本 ☎03(5940)8689
関東 ☎03(5940)8690
関西 ☎06(6354)7315

供給課 ☎03(5940)8676
東京 ☎03(5940)8674
中部 ☎052(733)6662
九州 ☎092(688)9595

健康と安全と教育の「もの・こと」を探求する

学校教材を研究するという意味から、「スクール＋ラボラトリー」の略語として名付けられた総合カタログ「スクラボ」。
深い学びに繋がる教材を開発、流通し、全国の教育委員会や小・中学校にお届けしています。



Sitting Volleyball

初心者にも
安心な
やわらかい
ボール

rotolo(ロトロ)
ソフトバレーボール

やわらかく
当たっても
痛くない



rotolo(ロトロ)
ライトドッジボール



rotolo(ロトロ)
サッカーボール



rotolo(ロトロ)
ドッジボール



rotolo(ロトロ)
サウンドボール

オリパラスポーツを体験してみよう！

スクラボ SQLabo School Laboratory 教材総合カタログ



 **sanwa 株式会社 三和製作所**

WEB
CATALOG



〒132-0021 東京都江戸川区中央 4-11-8 tel.03-5607-7811(代) fax.03-5607-7812 <https://www.sanwa303.co.jp>

体育の学習

2020年 全面改訂！

監修 白旗和也
(日本体育大学教授)

児童書 1～6年 全学年
定価 各学年 510円(税込)

指導書 1～6年 定価 各学年 2,900円(税込)



大判化で、
イラストや写真が
見やすい！

連続写真で
わかりやすく解説！



二次元コードから
動画が見られる！！

「体育の学習」対応 デジタル図書教材

デジ体

デジタル 体育

DVD版

アプリ版

*DVD版「デジ体」は、児童書+指導書をセットでご探
いただいた場合のみ、指導書冊数分をお送りします。
*アプリ版は、児童書+指導書のご採択校へ認証コードを
ご提供します。認証コードで、全コンテンツが利用できます。
*アプリ版は、アプリストアからインストールしてご利用ください。
対応OS:iOS10～12/iPadOS 13、Windows® 8.1/10
(2021年8月現在)



デジ体の
詳細は
こちら→



よくある「つまずき」に対応した
解決法を動画で確認！

800本以上！

動画撮影&
保存機能も！
動きの確認や、
評価に役立つ！



学ぶことが好きになる。

光文書院

〒102-0076 東京都千代田区五番町14

TEL.03-3262-3271(代表)

FAX.03-3230-4190

<https://www.kobun.co.jp>

ミズノグループの総合力

■スポーツ施設運営・サービスの提供 ■スポーツ施設の設計・施工 ■スポーツ施設用品販売



スポーツ施設設計・施工
運動プログラム・
サービスの開発・提供

MIZUNO
WELLNESS LIFE
DESIGN



スポーツ施設管理運営
スポーツ教室・
イベント企画運営



体育施設機器・
器具設計・
施工販売

ミズノ 株式会社 スポーツ施設サービス事業部

〒559-8510 大阪市住之江区南港北 1-12-35
TEL: 06-6614-8184 FAX: 06-6614-8343
〒101-8477 東京都千代田区神田小川町 3-22
TEL: 03-3233-7235 FAX: 06-3295-4286

ミズノ 施設 検索

Physical
Exercises
Gymnastics
Track&Field
Swimming
Basketball
Handball
Soccer
Volleyball
Soft Tennis
Table Tennis
Badminton
Softball
Judo
Kendo
Sumo
Dance
Skiing
Skating
Outdoor

学校体育教育の新時代をひらく あかつきの副読本&ワーク



図解
中学体育



新保健
体育ワーク



新保健
ワーク

お手もとに，ぜひ。



<http://www.kosaidoakatsuki.jp/>

廣済堂あかつき株式会社

〒176-0021 東京都練馬区貫井4-1-11
編集部 ☎03-6435-6690(体育)
営業部 ☎03-3577-8966

あかつき



株式会社

こども体育研究所



理想の教育、体育を研究する。

東京総本部

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-43-16 コア本郷ビル 8F

☎03-3830-0755 (代) ☎03-3830-0756 ホームページ URL <http://www.kenkyusho.co.jp>

東北エリア … 仙台・岩手・青森・山形・福島・新潟

関東エリア … さいたま第一・さいたま第二・茨城・水戸・宇都宮・千葉・神奈川

関西エリア … 東海・浜松・静岡・関西・広島・松山・九州



「中学 保体資料ノート」

毎年新しいコンテンツが続々と登場！



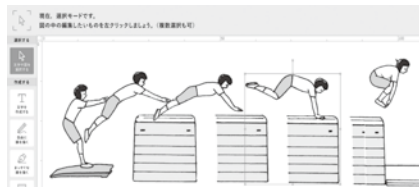
保健体育の先生方の間で話題になっています！

正進社
SEISHINSHA

<http://www.seishinsha.co.jp/>

POINT 1

学習カードやテスト作りに便利！
「いじれるイラスト素材」



▶イラストの一部を移動したり、消去したり、角度を変えたり、自由に加工できます。

POINT 2

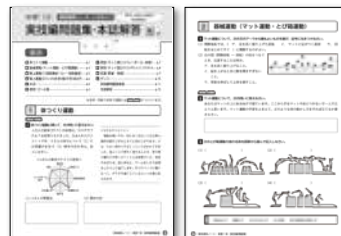
動きをじっくり観察できる！
「お手本動画」



▶横・正面からの映像で動きを確認できます。

POINT 3

テストやプリントにも使える！
別冊「実技編問題集」



▶思考・判断をはかる問題を収録しています。

EVERNEW から新しい提案！



光触媒スプレー

by

FRESHION

光触媒で感染症から守る
スプレーして光を当てるだけ
効果は10日間

防カビ

除菌・
抗ウィルス

防汚

除菌・
除ウィルス

消臭



詳しくは
こちらから



品番：EKK401

品名：光触媒スプレー FRESHION

価格：¥ 3,200（税込 ¥ 3,520）

※本誌 49・87 ページもご覧ください。



クライミングウォール

国内シェア70%以上

学校・競技等のウォール施工

運動のきっかけづくり
アミューズメント



設計・施工から
アフターメンテナンスまで

施工事例

年間メンテナンス

1,000件以上

120件以上

カラダを「動かす」場所、カラダで「楽しむ」場所をつくる。

東商アソシエート株式会社

03-4321-0142



toiawase@
climbing-tosho.com

Gakushin®

SCHOOL SHOES
S-2800



School Shoesとしての耐久性
ただ長持ちさせるのではなく、
運動性能と安全性能も大切です。

SPES スペース
学校体育シューズ研究会
School Physical Education Shoes

協和株式会社 神戸市長田区西尻池町1丁目3番8号
TEL : 078 - 611 - 4376 (代)

GOLDSTAR
SPORTS SCHOOL SHOES

GX



体育館
シューズ

高機能・ジャストフィットを実現
超軽量モデル 片足 (24.5cm) 290g

SPES スペース
学校体育シューズ研究会
School Physical Education Shoes

ASTICO 岡山県岡山市中区江並417-1
株式会社 アスティコ TEL : 086 - 276 - 2010 (代)

プール内での
感染対策に

スクール
レッスン時

21年3月発売

FOOTMARK®

水泳レッスンマスク

※特許出願中

「待ち時間、指導者の話を聞いている場面」で装着することで感染リスクの軽減やクラブの感染対策の取り組みの一環として会員様の安心感に繋がる効果が期待できます。

No.3000020 税抜き価格¥500

カラー

01.シロ/06.サックス/27.ミント

品質

肌面：ポリエステル80%/ポリウレタン20% 表面：シリコン
スパイラルコード：ポリウレタン バックル：ポリプロピレン
中国製

サイズ

【Sサイズ】

首囲：25～28cm(主に低学年以下)

【Mサイズ】

首囲：28～32cm(主に高学年～中学生)

【Lサイズ】

首囲：32～38cm

商品紹介ムービー公開中
URLかQRコードよりアクセス
<https://youtu.be/Ri7QrJvDJV4>



装着方法

＜泳いでいない時＞
マスクを鼻に掛けることで、鼻口部分を覆う



＜泳いでいる時＞
マスクを首に掛けて泳ぐ



後部のスパイラルコードは常に首にある状態で使用
(耳の上には通さない)

特徴

1

表側

シリコン素材

ストレッチ
素材

肌側

シリコン素材で
ウィルスや飛沫を
通しません

2



口元に十分な空間が確保され
呼吸がラクラク

3



泳ぐ時は下に引っ張るだけ、首元に瞬時に移動でき
外すのも簡単です

4



泳ぐ時は首元で緩やかにフィットし
泳ぎを妨げません

5



最大100cmまで伸縮するので
児童ひとりでも着脱が簡単

6



ベルト部分に4kgの負荷がかかるとバックルが外れるため
安全性が高い

7



ねじれ防止プレート付
右側には名前が書けます

大修館書店

■お求めは書店または小社HPへ… <https://www.taishukan.co.jp>

学習指導要領準拠

ステップアップ 中学体育



改訂版!

[編著者] 友添秀則

●B5判・352頁 オールカラー
定価825円(税込)

withコロナ時代の
体育にも対応!



楽しく学んで、
運動やスポーツの
知識と技能を
身につけよう!

- ① デザイン一新!
学習に役立つ写真・イラスト・解説を効果的に配置。
- ② 安全面を重視!
スポーツを安全におこなうための方法が充実。
- ③ 意欲を高める
内容構成!
基礎・基本を重視しつつ
内容を精選。
- ④ みてわかる動きの
ポイント!
二次元コードから動画に
アクセス可能。

研究と実践の架け橋になる月刊専門誌 ■毎月14日発売 ■定価913円(税込) ■B5判

体育科教育

『体育科教育』の定期購読をおすすめします! 以下の特典があります。

① 年間購読料 **10,043円(税込)** 1号分サービス! ② 送料無料!

お申し込みは小社HPで! …こちらのQRコードからもアクセスできます▶



授業風景の
動画配信
やってます!

口絵カラーページで紹介している授業の動画が見られます!

いつでも
どこでも
無料
視聴!



雑誌にスマホをかざすだけ!



*画像はイメージです。
*別途、通信費がかかります。

子どもたち一人ひとりの未来のために、豊かな“学び”を提供します。



**改訂
新版
1年**

- ◎教科書の課題に対応した紙面構成。自分の考えなどを書き込めるスペースを十分に確保し、ワークシートのように使えます!
- ◎章ごと、学期ごとのまとめのまとめの問題付き。
- ◎体育実技のまとめの問題付き。

中学保健体育の学習
(中学校保健体育ノート教材)



**改訂
新版**

- ◎「課題をみつける・話し合う・伝える」の記述欄を随所に設けました。自分の長所や課題、チームで話し合ったことなどを書き込むことができます!
- ◎紙面のQRコードから、関連動画などを閲覧することができます!

中学体育実技

(公財)日本中学校体育連盟 特別賛助会員

株式会社 学研教育みらい

小中教育事業部

TEL 03-6431-1151(代表) 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8



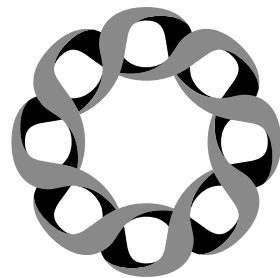
学研 学校教育ネット

<http://gakkokyoiku.gakken.co.jp/>



facebookページ
もあります





Columbine

The Guardian of School Life



願いをカタチに

私たちは常に、
子供たちにとって
<安全>で<安心>して
学校生活を過ごせる
「良品提供」をお届けします。

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員

(公財)日本学校体育研究連合会推薦品

 児島株式会社

本社／〒711-0911 岡山県倉敷市児島小川 2-4-60

TEL 086-473-4634 FAX086-472-0866

関東営業所／〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上小町 1085

TEL 048-642-5883 FAX048-642-4766

盛岡営業所／〒020-0846 岩手県盛岡市流通センター北 1-4-18

TEL 019-638-7501 FAX019-637-0144

URL:<http://www.kojima-gp.co.jp> E-mail:gyomu4@kojima-gp.co.jp